

# ダブルホーム



地域と共に創る「新たなふるさと」

## 2021年度 活動報告書



新二郎 & 新二郎 Jr.



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY



## はじめに

新潟大学では、2007年度からダブルホーム活動をスタートし、2011年度からは新潟大学独自のプログラムとして継続しています。ダブルホームは、学生たちが所属する学部・学科を「第一のホーム」とするのに対して、文系・理系・医歯系の区分を越えて「第二のホーム」を運営し、地域活動をとおして人間としての成長を目指すプログラムです。本プログラムは全学に開かれ、学部や学年を越えたチーム活動、その学生たちの主体的取り組みを支援する教職協働、学生が参加時から卒業まで活動を継続できる準正課活動であることが大きな特徴です。近年は、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組むことでシチズンシップやチームワーク力を育成していくことに重点を置いています。

スタートから14年目を迎えた2021年度は、新潟市中央区万代地区で活動するNホームが新たに加わり18ホームが活動しました。過去最多の学生466人、教職員63人が参加しました。新型コロナウイルス感染症対策等の制約が大きい中での活動となりましたが、地域での活動を再開することができました。例年の地域行事における取り組みができず、多くのホームが新たな活動を模索した年度でもありました。12月11日には、社会で活躍する3名のゲストスピーカーを迎えて、ダブルホームの意義と未来を共に考えるシンポジウムをオンラインで開催しました。学内はもとより学外の皆さまを含めて総勢217人もの参加があり、参加者のダブルホーム発展への熱意を実感する一日となりました。

このたび、各ホームが1年間の活動の振り返りについてまとめた報告を編集し、2021年度の活動報告書として刊行いたします。ご協力くださった全ての皆さまに感謝いたします。

新潟大学 教育・学生支援機構 教育プログラム支援センター 連携教育支援オフィス  
ダブルホーム部門

### 目次

はじめに	01	06 A Blange
ダブルホームとは		08 B いろはの風
2021 ダブルホーム活動地域マップ	02	10 D さんせつと
2021 年度ダブルホーム活動一覧	03	12 E アース・アース
2021 年度ダブルホーム活動の概要		14 F Natural
新加入生歓迎プロジェクト～大説明会		16 G 暖
地域実習報告会	04	18 H ほたる
オープンキャンパス「ダブルホーム情報館」		20 I あい
第13回 ダブルホームシンポジウム		22 J なごみ
ダブルホームワークショップ2021	05	24 K かもろに
各ホームの報告	06	26 L 輪～つながる～
		28 N ねすと
		30 Q Sun Q
		32 R あっとほーむ
		34 S しいたけ
		36 T ほりごたつ
		38 U まほろば
		40 V かわせみ

# ダブルホームとは

ダブルホームは、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組むプログラムです。地域の思いと向き合う中で「自分たちに何ができるか」をチームで考え、活動を計画・実践・省察することで、これからの社会生活に必要なシチズンシップやチームワーク力を育みます。

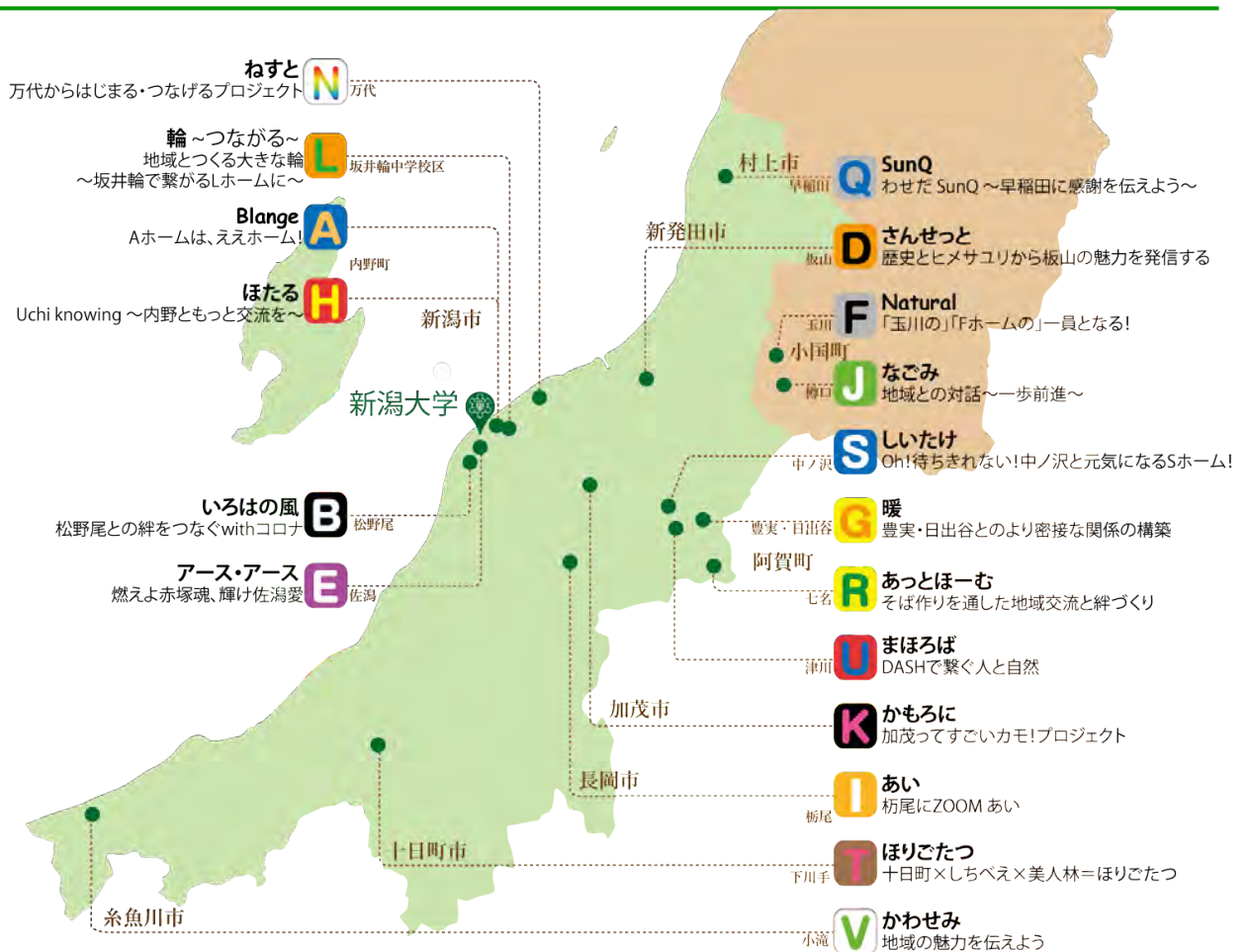


専門分野の学問を学ぶ学部・学科を「第一のホーム」とするのに対し、総合大学の特性をいかし、専門の枠を越えて学生たちが集まり、学び合う場が「第二のホーム」です。



多様な学問分野・領域の学生が教職員とともに「第二のホーム」を運営し、地域と連携しながら活動を行います。ともに地域課題に取り組む中で人間性を育みます。

# 2021 ダブルホーム活動地域マップ





## 2021年度 ダブルホーム活動一覧

ホーム	ホーム名 (プロジェクトテーマ)	活動地域	活動内容
A	blange (Aホームは、ええホーム！)	新潟市西区 内野町 大学南	・梅プロジェクト ・内野マップ作成 ・内野まちあるき ・南心会定例会参加 ・ホームページ作成 ・新大ランド
B	いろはの風 (松野尾との絆をつなぐwithコロナ)	新潟市西蒲区 松野尾地区	・まち歩き ・七夕会飾り作成 ・折り鶴づくり ・ゲームラリー ・クリスマス会 ・卒業を祝う会
D	さんせつと (歴史とヒメサユリから板山の魅力を発信する)	新発田市 板山地区	・田植え ・村歩き ・稲刈り ・卒業式 ・ヒメサユリ培養
E	アース・アース (燃えよ赤塚魂、輝け佐潟愛)	新潟市西区 赤塚・佐潟	・佐潟散策 ・佐潟まつり ・ハスフラワーづくり ・白鳥観察 ・春の潟普請
F	Natural (「玉川の」「Fホームの」一員となる！)	山形県小国町 玉川地区	・看板作成 ・田植え ・地域散策 ・オンライン談話 ・しめ縄づくり ・年賀状作成 ・レクリエーション
G	暖 (豊実・日出谷とより密接な関係の構築)	阿賀町日出谷 豊実地区	・草刈り&笹の葉採集 ・キャンドルナイト ・オンライン料理会
H	ほたる (Uchi knowing～内野ともっと交流を～)	新潟市西区 内野町	・まち歩き ・灯籠ワークショップ ・おむすび企画 ・新大ランド
I	あい (枋尾にZOOM あい)	長岡市 枋尾地区	・地域散策&懇談会 ・あいホームだより発行 ・ポスター作成 ・ユニホッケー交流会 ・Zoom忘年会
J	なごみ (地域との対話～一歩前進～)	山形県小国町 樽口地区	・地域散策 ・料理コンテスト ・Jホームだより発行
K	かもろに (加茂ってすごいカモ！プロジェクト)	加茂市	・まち歩き ・あかりば ・クリスマスイベント
L	輪～つながる～ (地域とつくる大きな輪～坂井輪で繋がるLホームに～)	新潟市西区 坂井輪中学校区	・子ども食堂(夏と冬) ・まちづくり協議会との顔合わせ ・防災ワークショップ
N	ねすと (万代からはじまる・つなげるプロジェクト)	新潟市 万代地区	・クリーンウォーク ・万代散策 ・Vlog作成 ・5G実証実験 ・新潟Weekポスター・PV作成 ・おむすび・えんむすびプロジェクト開始
Q	SunQ (わせたSunQ～早稲田に感謝を伝えよう～)	村上市 早稲田地区	・かわら版発行 ・地域とZoomミーティング ・地域散策 ・地域ワークショップ ・学生発表交流会
R	あっとほーむ (そば作りを通じた地域交流と絆づくり)	阿賀町 七名地区	・そばの栽培 ・地域散策 ・郷土料理づくり
S	しいたけ (Oh! 待ちきれない! 中ノ沢と元気になるSホーム！)	阿賀町 中ノ沢地区	・地域訪問 ・Sホーム通信作成 ・かや刈 ・年賀状作成 ・お神酒送付
T	ほりごたつ (十日町×しちべえ×美人林＝ほりごたつ)	十日町市 松之山 下川手集落	・湿地米しちべえの栽培(苗代作り～脱穀、草取り) ・「かわら版」の発行 ・道普請(春・秋) ・さいの神
U	まほろば (DASHで繋ぐ人と自然)	阿賀町 津川地区	・まち歩き ・エゴマ栽培 ・畑作業 ・モザイクアート ・阿賀町SAKEパルシェ参加 ・料理リレー
V	かわせみ (地域の魅力を伝えよう)	糸魚川市 小滝地区	・プロフィール帳作成 ・地域訪問 ・Zoom顔合わせ ・ヒスイ探し

## 2021 年度 ダブルホーム活動の概要

4月	7~14	新入生ダブルホーム参加相談 (動画と資料提供、SNS による相談)
	13	「ダブルホーム活動入門Ⅰ」開始 「リーダーシップ演習ⅡⅢ-1」開始
	24	ダブルホーム大説明会
5月	13	第1回学生懇談会
	24	各ホームへ新加入生合流
6月	9	三菱みらい育成財団助成採択
	10	「ダブルホーム活動入門Ⅱ」開始 & 地域実習
7月	31	地域実習報告会
8月	9・10	web オープンキャンパス 「ダブルホーム情報館」 (動画配信とオンライン相談会)
10月	5	シンポジウム実行委員会立ち上げ 「リーダーシップ演習Ⅱ-3・4」開始
	16~	新大 Week
	24	(「ダブルホーム情報館」動画&活動 地域の魅力を伝えるポスター動画& ポスター展示)
11月	1	シンポジウムプレイベント1
	9	第1回ダブルホームワークショップ
	16	シンポジウムプレイベント2
	17	第2回ダブルホームワークショップ おむすび・えんむすびPJ スタート
12月	2	シンポジウムプレイベント3
	9	シンポジウムプレイベント4
	11	第13回ダブルホームシンポジウム 「NEXT STAGE~新たな一歩を踏み 出そう」
	15	シンポジウム・アフターイベント 山崎亮さん講演会 (第3回ダブルホームワークショップ)
	27	「リーダーシップ演習Ⅰ・Ⅱ4」 説明会
2月	10	第3回学生懇談会
3月	16	第4回ダブルホームワークショップ
	3	2021 年度活動報告書原稿提出
	24	2021 年次活動計画書提出

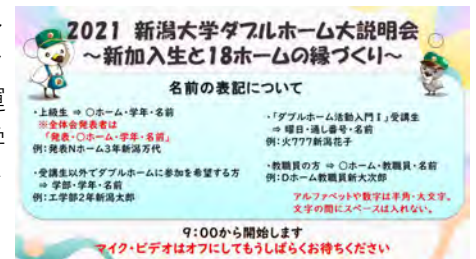
## 新入生歓迎プロジェクト~ ダブルホーム大説明会

参加相談会&座談会：2021年4月7日~14日  
大説明会：2021年4月24日9:00~12:15  
いずれも Zoom によるオンライン開催

実行委員長 仲 ひかり (Gホーム 創生学部3年)

昨年度のオンラインプロジェクトでの経験を活かし、より多くの新入生に、気軽な気持ちでダブルホームに興味を持って頂くことを目指しました。新加入生歓迎プロジェクトでは、新加入生がダブルホームに関する情報を得たり、質問したりできる窓口を多く設けました。大説明会では、各ホームの発表時間を短くして画面の前の参加者の負担を減らしたり、新入生が直接上級生と話すことのできる機会を多く設けたりすることに力を入れました。

至らない点もありましたが、新生活に慣れない新入生の負担を減らし、不安をすぐに解消できる場を整えることができたことで、多くの新入生に加入して頂くことができました。実行委員会としても、その後のオンラインプロジェクト運営に繋がる新たな学びを得ることができ良かったです。



## 地域実習報告会

日時：2021年7月31日(土) 9:00~12:30  
Zoom によるオンライン開催

実行委員長 大塚 彩乃 (Iホーム 工学部3年)

地域実習報告会では「地域におけるこれからの活動を考えよう」をテーマに、自他ホームの情報共有やチームワーク向上、今後の活動を検討できることを目標としました。実行委員では特に、発表の評価項目の見直しを行いました。課題解決に向けて取り組むアクションプランの内容や、その効果を評価項目に加えたことで、ホーム活動でやりたいことを明確にすることができたと考えます。また、ホームの上級生や教職員の方々とも発表のアドバイスなどを通して関わりを持つことで、ホーム内のチームワークも高まったと考えます。

実行委員長として、実行委員では意見が出しやすい、良い雰囲気作ることができ、それが反映された実習報告会にできたと感じています。

## 2021年度地域実習報告会 開会式



## オープンキャンパス「ダブルホーム情報館」

実行委員長 工藤 絵瑠 (Aホーム 創生学部3年)

日時：2021年8月9日(月) & 10日(火)  
YouTube 動画配信 & オンライン相談会

「ダブルホームが新潟大学を選ぶ理由になる」という目標を立て、オープンキャンパスに向けて活動しました。パンフレット型資料の作成/配布、参加学生のトーク動画の作成/配信、Zoomでの交流イベント開催という3つの取り組みを行い、高校生の疑問や不安に寄り添うことができるコンテンツを目指しました。動画は新大 WeeK でも配信し、総計200回ほど再生していただきました。私たち実行委員も楽しんでコンテンツ作りをしていたため、オンラインでもダブルホームの空気感が見える内容となり、高校生の皆さんの大学生活への期待を高めることができましたと感じています。オープンキャンパスをきっかけにして来てくれる後輩に出会えることを楽しみにしています。

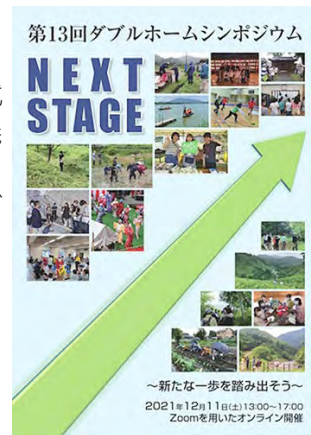


## 第13回 ダブルホームシンポジウム

実行委員代表 萩原 大貴 (Q・Nホーム 法学部2年)・福島 彩友美 (E・Nホーム 経済科学部2年)

日時：2021年12月11日(土) 13:00~17:00  
Zoomによるオンライン開催

今年度は「Next ステージ～新たな一歩を踏み出そう～」のテーマのもと開催しました。新型コロナウイルスの影響で今年度から地域活動が再開されたものの日々試行錯誤して活動する各ホームの姿がありました。この機会に、ダブルホームの意義と未来を考え、さらなるダブルホーム活動の活性化を目指すために、今回はアフターイベントも含め4名のゲストスピーカーをお迎えし、多くの視点から今後のダブルホーム活動をするうえで役立つ新たな知識を得ることができました。参加者からは、できることから始めようと意欲的な声が聞こえた一方、地域の方やホームごとでもっと話したかったとの声もあり、今後、各ホームで地域の方も交えながら新たなステージを共に歩んでいくことを期待しています。



## ダブルホームワークショップ 2021

地域活動への意欲向上に向けて外部専門家等との連携を望む声があり、ダブルホーム活動を通して必要と感じた学びを深めるダブルホームワークショップ 2021 を11月から2月末までに4回実施しました。

第1回  
11月9日(火) 6限 18:05~19:35  
大学生×地域の『また会いたくなる』  
活動のはじめかた・つくりかた



井上有紀さん  
にいがたイナカレッジ

準備期：  
地域とのさらわり方を  
考えよう！

第2回  
11月17日(水) 6限 18:05~19:35  
学生と地域でつくる「えん むすび」～  
料理研究家、佐藤智香子さんを迎えて～



佐藤智香子さん  
料理研究家/フリーアナウンサー

12月11日(土) 13:00~

ダブルホーム  
シンポジウム

第3回  
12月15日(水) 6限  
18:05~19:35



山崎亮さん  
コミュニティデザイナー  
つながりから  
ダブルホームを考える



角野仁美さん  
みらいず works

第4回  
2月16日(水) 6限 18:05~19:35  
地域での学び・チャレンジを大切に、  
自分らしい歩みを考えよう！



榎湯晃広さん  
越境学習と  
地域活性化  
への行動

竹雄大祐さん  
一歩踏み出し、  
次なるステー  
ジへ！

狩野哲也さん  
ダブルホ  
ム活動をも  
り楽しくす  
る計画

各回、16人～42人の参加があり、地域や活動に対して想いや考えが深まったと好評でした。本ワークショップは、今年度採択となった三菱みらい育成財団の助成プログラムの一つです。





### ホームの概要

メンバー構成： 1年生 10人、2年生 2人、  
3年生 4人、4年生 1人、  
教員 2人、職員 2人

活動地域： 新潟市西区大学南・内野地区

関連団体： 南心会(大学南が丘)

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度(テスト期間を除く)

### 成果物・制作物



地域の方に作成方法を教えて頂き、梅シロップを作成しました。



梅シロップを作成した後に、取り出した梅を各自家に持ち帰り、梅ジャム等を作成しました。

### 活動目的と概要

A ホームの活動拠点である大学南・内野地区は五十嵐キャンパスに近いので、徒歩でアクセスでき、例年多くの活動が行われているため、地域の方々との交流が盛んでつながりが強いホームです。対面ミーティングの日にも Zoom をつなげて行うため、毎年旭町キャンパス所属の学生も参加しています。メンバー間の関係作りも大切にしており、様々な学部・学年の人と出会うのが A ホームの魅力です。地域の方々をはじめとした多くの人と互いに協力し合って活動を行うことを大切にしています。

### 活動目標の達成状況

#### 【地域活動について】

今年度の目標は、「地域の方との交流や地域活動の中で、内野の魅力を知って、それを外部に発信できるようになる」「活動地域に住む方に A ホームの存在を知ってもらい、もっと多くの地域の方から頼りにされる団体になる」の2つでした。西区公募型オンラインモデル事業に応募したことで、西区の1部の団体には存在を知っていただけたとは思いますが、広く外部に発信することはできなかったと考えます。また、今話を進めている大学南が丘自治会HPの作成によって、活動地域に住む方に A ホームの存在を知ってもらい、もっと多くの地域の方から頼りにされる団体になるという目標は達成できるのではないかと考えるため、今後達成に向けて動いていきます。「コロナ禍においても工夫をこらして自分たちに出来る地域活動を検討・実行していきたい。」と具体的な活動目標を掲げましたが、この点に関しては、梅シロップのオンライン試飲会を地域の方と実施するなどして、工夫を凝らして活動出来たと考えます。

#### 【ホーム運営について】

今年度の目標は、「学年関係なく活発に意見やアイデアを出せてそれらを尊重・実現できるようなホーム環境作り」「物事をスピーディーに行えるような盤石なホーム運営体制の確立」の2つでした。学年関係なく、意見やアイデアを出すことはできたと思いますが、上級生に任せてしまう場面も多々あったため改善していかなければならないと考えます。また、物事をスピーディーに行うことに関しては、お互いに助け合い臨機応変に動くことで実現できていたように考えます。「学生間での連携をしっかりとる。仕事が偏らないような役割分担や上級生から下級生への情報の引継ぎを確実に行うことで、スムーズな組織運営を目指し、かつ次年度以降の運営で困ることがないようにする。」と具体的な活動目標を掲げましたが、この点に関しては、学年関係なく仕事を偏らないよう役割分担することが出来たと思います。



## 活動を通して学んだこと

私はダブルホーム活動を通して人とのつながりの大切さを学びました。リモートでも対面でも話し合ったり一緒に活動出来たりしたことに喜びを感じました。しかし、まだ人に頼ってしまうことが多かったので今後は自分にできることを考え積極的に活動していきたいです。

坂田 芽生（人文学部1年）

自分たちだけで話し合うより、実際に地域の方の声を聞くことによって新たな気づきを得られるということを学びました。特に高校生との交流会が印象的でした。来年度も積極的に地域の方と関わりを持って、実践的で効果的な活動をしていきたいです。

渡辺 丈一郎（工学部1年）

今年度は、対面での活動が可能になり、地域の方と一緒に活動する機会が多くなりました。画面では気づくことの出来なかった色々な方の新たな一面を知れたり、人と人の繋がり的重要性を改めて認識することが出来ました。

小川 桃香（医学部2年）

皆で協力して物事を行うことの大切さを学びました。今年度は、A ホームが主体となって梅プロジェクトに挑戦したり、オンラインモデル事業に応募したりと新たな活動を行いました。ホームのメンバーで分担したり、助け合ったりすることで、新たな挑戦にも取り組めたのだと思います。

栃村 美穂（法学部3年）

## 今後に向けて

今後に向けては、来年度もコロナ禍での活動となることを考慮しつつ、対面で行える活動は感染症対策をしっかりと行っただけで積極的にいき、非対面での活動も充実したものとなるよう、計画をしっかりとたてていきたいです。また、今年度はAホームが主体となって梅プロジェクトを進め、その一環として日本文理高校での交流会を行ったり、西区公募型オンラインモデル事業に応募したりと新たな活動も行いました。来年度は今年度の反省を踏まえて、今年度新たに行った活動をよりいい活動にしていきたいと思っています。また、シンポジウムでの話し合いの際に、毎回活動後に反省の場をしっかりと設けることが出来ていなかったのではないかとという反省がでたため、来年度は活動後の反省をしっかりと行い、活動をより充実したものにしていきたいです。今年度は、地域の方と一緒に活動を行う機会が多くなりました。南心会の定例会に参加し、新たな取り組みとして大学南が丘自治会HPの作成の話も進んでいます。今後も築き上げてきた地域の方との交流を大切にしていきたいです。また、メンバー間の関係づくりの機会を引き続き大切にして、新入生を迎える準備を進めていきたいです。

## 活動地域より

梅の収穫～梅シロップの瓶詰め、ラベル作成まで頑張りましたね。成果を形にすることの大事さを痛感しました。来年度も出来に期待します。

新潟市西区大学南 南心会 遠藤 弘技 様

## 担当教職員より

昨年度に引き続きコロナ禍での活動は制限されたものとなりました。そのような中でも、新たな取り組みとして、新潟市西区公募型オンラインモデル事業に応募し、採択された事業計画を実行した皆さんの活動は素晴らしく、地域のより多くの方々との関わりに繋がっていくことと思います。

教務課 佐藤 裕介

## 活動記録（2021年4月～2022年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 梅プロジェクト
- 6月
- 7月 まち歩き、梅プロ(日本文理高校にて)、地域実習報告会
- 8月
- 9月
- 10月
- 11月 ラベル作成、オンライン試飲会
- 12月 新大ランド、梅シロップ贈呈式  
ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月 マップ作り、HP作成



7月3日 まち歩き



12月5日 新大ランド



### ホームの概要

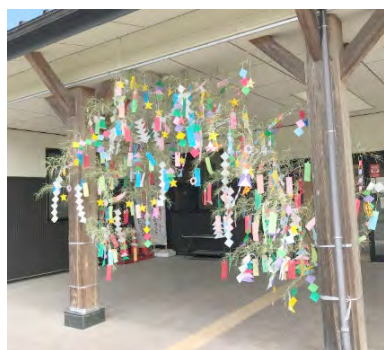
メンバー構成： 1年生 8人、2年生 5人、  
3年生 4人、4年生 6人、  
修士以上 1人、教員 2人、  
職員 1人

活動地域： 新潟市西蒲区松野尾地区

関連団体： 松野尾地域コミュニティ協  
議会

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

### 成果物・制作物



七夕会における飾り付け (2021年7月)



千羽鶴づくりのお手伝い (2021年12月)

### 活動目的と概要

私たち B ホームは新潟市西蒲区松野尾地区で、主に子どもたち向けの事業の一部を企画・運営させていただいています。様々な世代の方々との交流の中で、地域の意を汲み取りながら活動に取り組み、地域と学生・教職員との絆をつなぐことを目的としています。

令和3年度は徐々に対面活動を行うことができ、子どもたち向けのゲームラリーやクリスマス会などを現地で行いました。活動の企画を行う際には、主に各学年により形成された縦割り班が中心となり、地域に資するためにどのようなことが必要か、学年関係なく活発に意見を交わしています。

### 活動目標の達成状況

#### 【地域活動について】

B ホームの活動は松野尾コミュニティ協議会の方々との連携をとりながら、松野尾コミュニティセンターを中心に展開しています。そこで行われる子ども向けの行事の一部を B ホームの学生が担当し、行事の企画運営を行っています。今年度は感染予防を行ったうえ B ホームの軸である子供向けの活動をはじめとする例年通りの活動を行えるように目指すという目標を掲げ活動をしてきました。

今年度は昨年度と違い、感染対策を十分に行ったうえで例年通りの活動を行ったり、感染対策できるようイベントの形式を変更、工夫したりして活動の企画運営を行いました。コミュニティ協議会の方々の協力もあり、2回のまちあるき、ゲームラリー、クリスマス会を開催することができました。課題としては例年の活動を再開することばかりになってしまい、ホーム全体の意思を汲んで新しい試みを行うことができませんでした。

#### 【ホーム運営について】

2021年度は1年生8名、2年生5名、3年生4名、4年生6名 修士1名の計24名で活動してきました。今年度は活動目標として①多くの学生に役割を与え、ダブルホームに対する、やる気向上を図る。②活動別 CEO s 制度の導入（活動ごとにその代表学生を2、3名決め、その学生中心に活動の準備を進める。代表学生が全体に指示を出し、B ホーム全体で協力する体制）を掲げ活動してきました。

活動に向けたミーティングの開催（Zoom,対面）を定期的に行い、活動の準備を通してホーム内の仲を深めることができました。



## 活動を通して学んだこと

私がBホームの活動を通じて学んだことは、誰の為に何をしてあげたいのかという目的を持って取り組む大切さです。Bホームは松野尾の子どもたちと活動が多く、毎回のイベントの中でどんなことをすれば子どもたちが楽しみそして喜んでくれるのかを考えながら、プランを持って企画・運営をすることができました。

加藤 彩夏（教育学部1年）

今年度は実際に松野尾で活動することができ、地域の皆さんの思いに寄り添うことの大切さを学びました。昨年度できなかったことで今年度やりたいこと、今後やりたいことなどを直接聞くことができ、松野尾地域の皆さんと様々なことに挑戦していきたいと思いました。

古井 ひかる（経済科学部2年）

3年生になって初めて地域に訪れることができました。自分とは異なる世代との関わりのなかで、イベントの企画立案では広い視野を持つことを意識しました。例年とは異なる制約のかかった活動でしたが、その分企画力を磨くことができてよかったです。

坂田 功星（経済学部3年）

今年度は制限がありつつも松野尾に行くことができ、以前と変わらず迎えてくれる地域の方の温かさ・地域で活動できる嬉しさを感じた1年でした。この4年間のダブルホーム活動を通してたくさんのことを学ばせていただきました。

藤野 まゆ（農学部4年）

## 今後に向けて

今後、私たちBホームではダブルホーム活動を通して松野尾地区に「どのような変化をもたらしたいのか」を明確にし、それぞれのアクションが持つ意義をより意識しながら活動していきたいです。

これまでは、ゲームラリーやクリスマス会などの地域で行われる活動の一部に参加させていただき、企画・運営を中心に行ってきました。しかし、学生がゼロから創り出す活動が少なく、新しいチャレンジが生まれにくい状況でした。このことを受け、今後は地域の実情や地域の方々のご意見を基に、学生側から今までの活動では取り組んでこなかったような創造的なアイデアを出すことを目指します。

そのために、まずは地域の実情や地域の方々のご意見を的確に把握し、地域の方々から必要とされていることと学生が行いたいと思うことを掛け合わせ、より意味のあるアクションを実施できるようにしたいです。そして、地域の方々との交流・意見交換を密にし、コロナ禍で希薄になりがちな地域とのつながりを深めていきたいです。

また、各学生が主体的に活動に取り組み、学年関係なく「ダブルホームに参加して良かった」と思えるようなホーム運営を目指します。

## 活動地域より

こんなはずじゃなかった大学生活！今どう考えてますか？松野尾地域にホームはすっかり定着してますよ。それは携わって来た多勢の先輩達や先生の汗の結晶であると思ってます。来年も又再来年も、松野尾地域を支えに来て下さい。待ってます。

松野尾地域コミュニティ協議会 事務局長 堀 秀俊 様

## 担当教職員より

今年度も従前通りの活動とはいきませんでした。限られた機会の中で、まちあるき、ゲームラリー、クリスマス会等を行い、地域の皆様との交流を持つことが出来ました。今後も地域の皆様、学生、教職員で協力し、松野尾での地域活動を盛り上げて参りましょう。

理学部 蛭川 潤一

## 活動記録（2021年4月～2022年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 街歩き①
- 6月 街歩き②  
七夕会飾り付け作成（郵送）
- 7月 折り鶴づくり（郵送）  
地域実習報告会
- 8月 ゲームラリー
- 9月
- 10月
- 11月
- 12月 クリスマス会  
ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月 おむすびプロジェクト（Zoom）
- 3月 卒業を祝う会（Zoom）



2021年8月8日 ゲームラリー



2021年12月18日 クリスマス会





### ホームの概要

メンバー構成： 1年生 8人、2年生 5人、  
3年生 6人、4年生 3人、  
修士以上 1人、教員 3人、  
職員 1人

活動地域： 新発田市板山地区

関連団体： 夢づくりいたやま

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

### 成果物・制作物



シトラスリボンプロジェクト

### 活動目的と概要

D ホームは新潟県新発田市の板山地区で活動をしています。「板山をより活気ある地域にしていくため、地域の方々との交流をすること」を活動目標としています。

主な例年の活動は、新入生が最初に参加するイベントである顔合わせ会、5月にある田植えと夢まつりと村歩き、8月にあるキッズサマースクール、10月にある稲刈り、11月にある収穫祭、1月にあるほやほやです。それに加えて、農学部生が中心となってヒメサユリの復元活動を通年行っています。

### 活動目標の達成状況

#### 【地域活動について】

今年度からヒメサユリ班と歴史班に分け、活動をしていくこととなりました。歴史班は「板山の歴史を調べ、私たち大学生が板山の魅力を発見し、板山の方々にもかわら版などを通して情報を共有していくこと」を、ヒメサユリ班は「ヒメサユリに関するホームメンバーの知識を向上させるとともに、地域の意向に沿って保全活動に協力すること」を、加えて「コロナの影響による行動規制を考慮し、オンラインや非対面でも可能な地域とのつながりが感じられる活動の提案と実行」を今年度の新たな目標としていました。

ヒメサユリの培養については、板山地区で元々多く生息していた準絶滅危惧種であるヒメサユリの自生を促すための培養及び板山への定植活動などを行っています。しかし、コロナ禍であったため、勉強会が思う様に開催できず、メンバー内で関心度に差があったのが現状です。来年度は、板山の方からヒメサユリへの思いを聞き、さんせつとの歴史を学ぶことで、メンバーの意欲向上につなげていきたいです。歴史班は、プロジェクトを行う事ができませんでした。そのため、この班分けについては来年度までに見直しを行おうと考えています。

地域活動では、1年ぶりに板山に行くことができました。対面での地域活動はメンバーのモチベーションに大きく関わるので、来年度も十分な感染対策を行いながら積極的に行いたいです。

#### 【ホーム運営について】

今年はオンラインでのミーティングを中心に活動しました。週に一回昼休みに行っていましたが、それぞれの予定等もあり参加者は少なく、話し合いをうまく進めることはできなかったのが反省点です。また、今年度は前年度と異なり数少ないものの地域へ赴き、交流することができました。地域の方と交流することも重要ですが、地域へ行けない期間に学生主体でできることを新たに探すべきではないかと思いました。また、役割分担がうまくできず、個人に偏ることが多かったので、学年に関わらず参加できる学生に役割を担ってもらえるように来年度は改善したいと思います。



Instagram

## 活動を通して学んだこと

板山での活動などを通してコミュニケーションを取り、協力していくことの大切さを学びました。直接会う機会は限られてしまいましたが、D ホームの仲間や板山の方々と話し合いを重ねながら様々な活動ができたと思います。次年度も活発な活動ができるようにしたいです。

塚越 千夏（人文学部1年）

活動を通して学んだことは、板山の人の温かさです。昨年度はコロナの影響もあり板山へ足を運ぶことができなかったのですが、今年度は村歩きや田植え、稲刈り等の行事で板山を訪れ、板山の方とお話ししたりすることができ、板山の方々の温かさに触れることができました。

伊藤 彩華（教育学部2年）

大学による課外活動の制限や地域行事の開催中止など、今年度も制約の中での活動となりました。そのような中でも、学生間や地域との繋がりをどうやって深めていくか。2年生を主体として、ホームの活動方針にも立ち返り、出来ることを模索する1年になったと思います。

中村 吏沙（経済学部3年）

今年度は、制限がある中で、実際に板山に行って活動することができました。また、オンラインで地域の方々も交えてのミーティングを行ったことにより、物理的な距離は離れていても、心の距離はこれまでと変わらずにいられたと思います。来年度以降も充実した活動を行ってほしいです。

小林 美友（人文学部4年）

## 今後に向けて

シンポジウムを受けて、D ホームではSNSの活用や役割分担に関して反省する点が多く挙げられると感じました。SNSに関しては複数人で運用し、定期的に投稿していきたいと思います。ホーム全体ではホーム長に頼りすぎず、他の学生にも日常的に仕事を振り分け、活動ごとに担当者を決めるなど、分担していきたいです。また、どこのホームも同様とは思いますが、今年度は新型コロナウイルスの影響で活動拠点である新発田市板山に行く機会が少なかったです。そして、D ホームでは、活動自体が少なくなっていました。次年度も新型コロナウイルスの影響が続いてしまう部分もあると思いますが、板山に行けないからこそ地域外から見た板山に意識を向けた活動を行ったり、学生の視点で板山の情報発信について考えたり、地域の方々や板山に馴染みのある先輩方の協力を得て板山への理解を深める活動を行ったりしたいです。

まだ訪れた回数は少ないですが、板山は自然が豊かで地域の方々には温かくとても素敵な地域だと感じています。次年度は板山の魅力を知り、Instagramなどを通して積極的に発信していける年にしたいです。

## 活動地域より

D ホームさんせつとの皆様、日頃より夢づくりいたやまの活動にご理解ご協力いただき、心より感謝申し上げます。さんせつとの皆様に板山で活動していただき、板山はとても良い影響を受けています。新しい出会いは、今までとは違った感覚が生まれ、新たな風が舞い込みます。せっかくのご縁を大切に、これからも一緒に楽しく活動していきましょう。

井伊 博人 様

## 担当教職員より

いま直面する難路をホーム員同志で、どのように克服して、どのような新しい取り組みを進めたのか、また活動がどう変わったのかなどは、記録として残すべきであり、それは歴史の一つに残ります。未来志向で、新しいD ホームを創造してもらいたいと願うばかりです。

農学部 山城 秀昭

## 活動記録（2021年4月～2022年3月）

4月	大説明会
5月	田植え・村歩き
6月	村歩き
7月	地域実習報告会
8月	
9月	
10月	稲刈り
11月	
12月	ダブルホームシンポジウム
1月	
2月	卒業式
3月	



5月9日 田植え



6月27日 村歩き





### ホームの概要

メンバー構成： 1年生 9人、2年生 8人、  
3年生 6人、4年生 6人、  
教員 2人、職員 1人

活動地域： 新潟市西区赤塚地区

関連団体： 佐潟と歩む赤塚の会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

### 成果物・制作物



佐潟まつりの灯籠



佐潟の蓮を使ったハスフラワー

### 活動目的と概要

E ホームが活動する新潟市西区赤塚地区は、白鳥やラムサークル条約に指定されている湖などがある自然が豊かな地域です。ここで、私たちは「佐潟と歩む赤塚の会」の皆さんをはじめとする地域の方々との交流や佐潟の魅力発見を目的に活動をしています。地域訪問では行事への参加、佐潟の自然保護のお手伝いをし、日々のミーティングではホームメンバー同士の交流や話し合い、潟マップ班と SNS 班に分かれた活動を行っています。

### 活動目標の達成状況

#### 【地域活動について】

今年度の地域活動の目標は、①「佐潟の水質改善、農家との連携など、地域に貢献できる活動を学生と地域の間で行う」と②「様々な人たちとの交流を行い、新しい知識や活動地域の魅力を発見する」でした。①については、予定していた潟普請が中止になってしまい水質改善や佐潟の保護に関する活動ができませんでした。参加できなくても、地域の方から現状を伺ったり、それを踏まえてアイデアを提案すべきだったと思います。地域への貢献活動については、今年度から本格的に SNS を使った佐潟の魅力の発信と、新たな潟マップの製作を始めました。それぞれ班ごとに分かれて活動していますが、地域の方と共有する機会を設定しなかったためにダラダラと活動してしまったところがあります。②については、昨年地域を訪問できなかった 2 年生がようやく佐潟に訪れることができました。状況的に様々な人たちとの交流は不可能でしたが、佐潟まつりや白鳥観察など昨年は中止になってしまった行事にも参加でき、地域の雰囲気と魅力を感じられたと思います。

#### 【ホーム運営について】

今年度のホーム組織運営の目標は、①「学年に関係なく発言できるようなミーティングの雰囲気作りを行う」と②「仕事を分担し、一人一人が責任感を持つ」でした。①については、9 月にホーム運営の中心となる 2 年生の話し合いを踏まえ、再度全体で活動方針の見直しを行いました。その中で出た意見が、「どんな活動をしてきたか分からない 1 年生に対し Google forms で自由に答えてもらう」というものでした。実際は今後行いたい行事を答えてもらいましたが、活用したのはこの時だけでした。ホーム運営についての意見ももらえたため、定期的な実施すべきでした。その他、アンケートを通じ以前から議題になっていた議事録の廃止とミーティングの曜日固定も行いました。②については、2 年生を中心に役割分担を行いました。ホーム長と副ホーム長に限らず、連絡係や各班のリーダーも決定しました。特に連絡係は前年の反省を生かし、2 人で担当することで負担を軽減しました。その中でも役職が被っている人がいたため、2 年生に限らず他の学年でも役職を任せるなどの工夫もできたと考えます。



## 活動を通して学んだこと

ダブルホーム活動を通して地域の人々の思いや直面している事態について学ぶことができ、また、大学生が地域とどのように関わられるかも学ぶことができ、非常に有意義な活動であったと思いました。今年度は活動制限があったので来年度は多くの活動ができると嬉しいです。

中村 隆人（人文学部1年）

佐潟での活動を通じて、新潟の自然の雄大さを学びました。白鳥観察会でのことですが、人間の森林伐採などで鷹の狩場が減ったことから鷹の飛来が減少したことなどは、自然環境の変化と人間の活動の影響力の大きさを身近に感じた経験でした。

依田 陽太郎（経済科学部2年）

白鳥観察会ではこれまで関わる機会がなかった探鳥会の皆さんとお話しができ、佐潟の新たな魅力を発見することが出来ました。また、久しぶりの対面での活動となりましたが、地域の方々が変わらず温かく迎え入れてくださって、人と人との繋がりを大切にしたいと感じた1年でした。

岩野 ひかり（経済学部3年）

ホームの皆様から私たちは佐潟だけでなく、人生など様々なことを教えていただきました。また、佐潟の問題点も赤裸々に共有し議論する時間をいただくなど、時には孫のように温かく迎え入れてくれ、時には地域の一員として真剣に話を聞いていただきました。そんな皆様が大好きです！

杉山 元基（創生学部4年）

## 今後に向けて

今年度の活動の反省点として多く挙げられたのが、自発的に活動が出来ていなかったということです。地域の方からの提案に基づくイベントや恒例行事に参加しているだけで、その目的まで意識していませんでした。それに伴い、地域の方と連絡を取っていたのがメンバーの一部だけであったため、地域の方との繋がりが希薄になってしまったという反省もあります。

以上を踏まえ、次年度は①「学生から具体的な提案をする、やりたいことを地域の方に相談する」②「そのために全員が地域の方と連絡できる環境を整える」③「活動は目標や区切りを設定し地域の方に報告する」という3つの流れをポイントに活動をしていきたいと考えています。

また、日常的な活動としてはホーム内での交流会を増やす予定です。ミーティングは週に1回程度実施していますが、次年度からは活動に関する話し合い以外の時間を設定します。できるだけ多くのメンバーが参加できるよう日程や環境を調整しつつ、一人一人が自発的な行動ができる雰囲気をつくってまいります。

## 活動地域より

今年もコロナ禍で制限を受けての地域活動となりました。人と人が直接対面する場が持ち辛く、十分な時間が取れずに残念な思いもあります。日々の生活は選択と決断の繰り返し。春は出会いと別れの時季です。皆さんが新たな環境で物事を選択し果敢に挑戦することを期待します。

佐潟と歩む赤塚の会 新潟市西区 涌井 晴之 様

## 担当教職員より

コロナ禍にあっても、できることに精一杯取り組む皆さんの姿に、私も頑張らねばと勇気もらっています。ダブルホーム活動の主役は、言うまでもなく一人一人の学生さんです。皆さんがやりたいことを、やりたいように実現できる。そんな環境を整えるため、今後もお手伝いできればと思っています。

財務部財務企画課 西 洋平

## 活動記録（2021年4月～2022年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 佐潟散策
- 6月 新加入生地域訪問
- 7月 地域実習報告会
- 8月 佐潟まつり
- 9月
- 10月
- 11月 ミーティング内ハスフラワー作り
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月 白鳥観察
- 2月
- 3月 春の潟普請



6月26日 新加入生地域訪問



11月2日 ハスフラワー作り



### ホームの概要

メンバー構成：1年生8人、2年生6人、  
3年生5人、4年生3人、  
教員1人、職員2人

活動地域：山形県小国町玉川地区

関連団体：小国町振興会

ミーティング：平日昼休み週1回程度

### 成果物・制作物



萱野峠に設置した看板



F ホーム紹介ポスター

## 「玉川の」「F ホームの」一員となる

### 活動目的と概要

私たち F ホームは山形県小国町玉川地区で活動を行っています。玉川地区では、田植えや地域散策、雪堀、グラウンドゴルフなどの活動を通して地域の方々と交流を深めています。しかし、現在新型コロナウイルスの影響で地域の方々と直接交流できる機会は少なくなっています。F ホームでは、地域の方々と直接交流することができるひとつひとつの機会を大切に、小国町玉川地区を盛り上げることができるよう仲間と協力しながら日々の活動を行っています。

### 活動目標の達成状況

#### 【地域活動について】

今年度の地域活動の目的については「相互のやり取りを大事にすることで、地域の方の思いに寄り添いつつ、学生だからこそできる地域活動を実現する」という目標で活動を進めてきました。それに関する今年度の新たな取り組みとしては地域の方と1人の連絡係が直接やり取りをするのではなく、地域の方とのLINEグループを作る事によってより活発な話が出来るようにしたり、地域の方々と交流をメインとした会の実施などを計画したりしました。しかし、それらの問題点として、地域活動の計画を立てるための事務的なものになってしまっている、今まで特定の地域の方としか出逢った事がなく、他の地域の方に対して興味を持っていただける計画を立案できたかというものがあります。それらをこれから調整していきたいです。交流や大きな活動が厳しいこの時代だからこそ何が出来るのかを真剣に考えていきたいです。

#### 【ホーム運営について】

本年度は新型コロナウイルス流行下においても感染対策を講じることによって田植え、地域散策及び看板設置、しめ縄づくり等、複数回にわたって地域を訪問することで実際に見て学び交流することができました。また、1学期後半及び2学期前半では対面でのミーティングを行うことでホーム内の交流を深めることにもつなげることができました。一方で、今後の課題として、①曜日の固定されたミーティングによって人によっては当該ターム間すべてのミーティングに出ることができなくなってしまう点、②議論の進行速度と内容の充実度を照らし合わせた際にその結果が芳しくない点、③方向性に欠け、自らの活動に対する意欲が減少傾向にある点が挙げられます。これら課題に関しては今後、ミーティングを通じて解決へ向けて話し合い、自らの活動に対して自信を持てるホームを目指していきたいです。



## 活動を通して学んだこと

私はダブルホーム活動を通じて、過疎、高齢化が進む地域の現状を実際の体験を通して学ぶことができました。その地域の住民の方々がどのような思いを持っているのかなど活動でしか学べないことも多く、有意義なものになりました。

廣瀬 岳 (工学部 1年)

今年度は実際に玉川に足を運んで直接地域の方と交流を深めることが出来て非常に良い経験になりました。様々な制限がかかる中でどのようにしたら上手く活動、交流が出来るか多くの視点で考えることの難しさや大切さを学ぶことが出来ました。

宮本 真衣 (医学部 1年)

私は、この1年間で地域の方々との関わり方を学びました。今年は一度しか地域に訪問することができませんでしたが、その中で地域の方々と先輩方との交流の様子を見て、地域に対する熱い思いを感じました。来年度もホームの皆さんと協力して地域に貢献していきたいと思います。

川上 真優菜 (法学部 1年)

今年度のダブルホーム活動では、初めて地域への訪問が叶ったことがとても嬉しかったです。実際に玉川地区の美しい自然に触れ、これからも地域の方々との繋がりを大切に、工夫しながら活動していければと思いました。

斎藤 桂 (理学部 2年)

## 今後に向けて

シンポジウムでの話し合いや振り返り等を通して、Fホームには、活動をより良くしたいという思いをもった学生がたくさんいることが分かりました。しかし、学業や他の課外活動との両立を考えると、全員の活動参加率を高く維持していくことは、難しいことだということも分かりました。そうした現状を踏まえ、Fホームでは、年度初めに各ベース活動の担当者を決めることにしました。こうすることで、多忙な人であっても、再び活動に戻ってきやすい環境ができると考えました。また、チャレンジ活動に力を注ぎやすい状態を保つことにもつながるので、新しい活動アイデアをこれまでよりも効率的に実現させることができると考えました。新型コロナウイルスの感染状況が改善されず、地域との対面交流もままならない状態ではありますが、Fホームは、そうした状況下でも、常に地域の方を思いやる心を大切にしてきました。今後も、そうした思いやりの心を大切に、学生ならではの新しく楽しい活動の実現に挑み続けます。

## 活動地域より

今年度も昨年に続き新型コロナウイルスの影響により、活動が制限され残念でした。そんななか、しめ縄作りのお手伝いありがとうございました。私事ですが約30年ぶりに地元に戻り過疎化、高齢化が進む現実を目の当たりにしています。みなさんの力をお借りして玉川を元気にしていく活動が更に続いていけばと思います。

小国町 清野 典雅 様

## 担当教職員より

1年間ダブルホーム活動お疲れ様でした。新型コロナウイルスで活動が制限されることが多かったですが、活動の幅を広げようと前向きに、そして積極的に話し合う姿がとても印象に残っています。来年度も現地で皆様と様々な活動ができることを楽しみにしています。

自然科学系総務課 堂角 颯

## 活動記録 (2021年4月～2022年3月)

- 4月 看板作成、大説明会
- 5月 看板作成、田植え
- 6月 地域散策・看板設置
- 7月 オンライン談話  
地域実習報告会
- 8月
- 9月 グランドゴルフ大会 (中止)
- 10月
- 11月 看板撤収
- 12月 しめ縄づくり、年賀状作成  
ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月 雪掘 (不参加)
- 3月 レクリエーションイベント



6/26 地域散策での看板設置



12/26 しめ縄づくり



**ホームの概要**

メンバー構成： 1年生5人、2年生9人、  
3年生8人、4年生7人、  
教員2人

活動地域： 阿賀町豊実・日出谷地区

関連団体： わげしょの会

ミーティング： 週一回のオンラインミーテ  
ィング

月 1,2 回程度の対面ミーテ  
ィング

試験期間中はお休み

**成果物・制作物**

G ホームのロゴ



キャンドルナイトのデザイン

**活動目的と概要**

私たちが活動する阿賀町豊実・日出谷地区は山々に囲まれた自然が美しい地域です。近年、少子高齢化が進み、若者の地域離れがみられます。G ホームとしては、地域の方々と交流し、より愛着を持ってもらうことを目的として活動しています。今年度は昨年度の課題を改善して、より充実したオンライン上での交流の実現を目指して活動してきました。さらに昨年度は実施できなかった地域での交流も目指して活動しました。

**活動目標の達成状況****【地域活動について】**

- ①地域の方々の負担にならないように配慮をする。
- ②コロナ禍での充実した活動を提供する。
- ③地域のことをより深く理解する。

①に関しては、昨年度の反省を活かし地域の方々の負担にならないよう LINE や Zoom の活用に関してその頻度を調整しました。

②に関しては、昨年度から始めた G ホームの Instagram を活用し、対面ミーティングができなくても皆で活動の振り返りをできるように工夫しました。

③に関しては、実際に地域で活動をすることで理解を深められました。今回の地域訪問は全員にとって初めての地域訪問でしたが、わけしょの会の皆さんが温かく迎えてくださり、とても楽しい時間を過ごすことができました。草刈りや笹の葉取りの活動を通して、地域の方の温かさや自然の豊かさ雄大さを感じることができたと思います。また、自分たちの身の回りに阿賀町の食材等が販売されているかもしれないということで、各自阿賀町の商品を意識して買い物などをしました。

**【ホーム運営について】**

- ①オンライン上での活動にも対応する
- ②地域の方々との交流はもちろんのこと、学生同士の交流も積極的に行うようにする
- ③効率的な議論の実施

①に関しては、Zoom の機能を活用してオンラインミーティングを行いました。「反応ボタン」を活用して他の人の意見に対してしっかりと反応することを心がけました。また、ブレイクアウトルームを活用して、少人数での話し合いや意見交換を行う機会を設けました。

②に関しては、夏にオンライン料理会を実施し、対面ミーティングが制限されている中でも学生同士の親睦を深めることができましたと思います。

③に関しては、ミーティングの内容を事前に伝えることで効率よく議論を行えたと思います。ブレイクアウトルームを活用した、少人数での話し合いや意見交換をより多く行ったため、議題に対してより深く考えることができましたと思います。

## 活動を通して学んだこと

ダブルホームでの活動を通して、私は企画実現のための計画性と主体性の必要性を学びました。誰が、何を、いつまでにやるのかを明確にすることと、全体の進行をそれぞれが自分ごととして捉える必要があることを学びました。このことを今後の活動および自分の人生に活かしていきたいです。

櫻井 隆樹 (経済科学部 1 年)

今年度はオンライン中心の活動となり、ダブルホームや G ホームの一員としての意義や在り方について向き合い、話し合う機会が多くありました。力不足な部分に気付かされるとともに、自分たちがすべきこと、したいことを自覚できたことは成果としてあげられ、どのような形でも来年度の活動にいかされるとおもいます。

加藤 美月 (医学部 2 年)

困難な状況にめげず新たな軌跡を刻めたと思っています。今年度もオンラインが中心となり、特に下級生は歯痒い思いをしたはずですが、しかしその中でも自分たちの課題と向き合い、話し合いながら模索する様子が見られて嬉しかったです。きっと将来にも活かせる経験になったと思います。

平松 紗也加 (経済学部 3 年)

私はこの一年間、地域への訪問や各週行われるミーティング等に参加し、「会話」の重要性を学びました。私は、日程が合わず会議に参加できないことが多く、毎度「お久しぶりです」でした。そんな中参加し続けられたのは、G ホーム仲間との日常的な会話があったからだと思っています。

馬場 健太 (工学部 4 年)

## 今後に向けて

今年度も昨年度に引き続きコロナウイルスの影響により思うように活動ができず、ダブルホームへの参加意義や目的を見失いそうになることもありました。しかし、シンポジウムの事前準備や当日の話し合いを通して、シンポジウムを主催してくださった方々や外部講師の方々、同ホームのメンバーの地域活動に対する思いを共有し合えたことで、改めて同じ目的や考え方を持った仲間の実在を実感し、今後のダブルホーム活動への期待を膨らませることができたように感じます。

また、シンポジウムが当ホームの課題と方針を再確認、再発見する機会となり、「改めて地域について理解を深める」「今年度の成果と反省を踏まえコロナ禍における活動を考える」「ホーム内のダブルホーム活動への意識と参加者の偏りを解消する」「メンバーのタテとヨコの繋がりを深める」といったことが挙げられ、そこで浮かんだ 4 点の課題について来年度以降集中的に取り組んでいきたいと考えます。

## 活動地域より

G ホームの皆さんお元気にやっていますか？阿賀町豊実ではいつも変わらない風景と雰囲気です。なかなかコロナで、顔と顔を合わせてのコミュニケーションはできませんが、それでもそんなときこそ出来ることもあります。来年度こそ、より良い充実した活動ができることを期待しています。

阿賀町豊実 わげしよの会 佐藤 高博 様

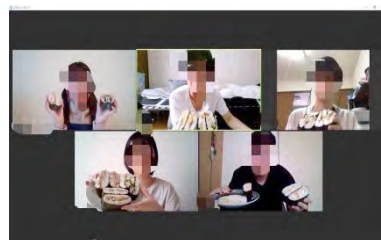
## 担当教職員より

昨年 1 回だけ阿賀町で実施できた活動では、人との触れ合いの温かさ、地域活動のありがたさを感じました。現地での活動の意義、オンラインでもできることの模索など、今後のダブルホーム活動における重要な問題に直面しています。ここが踏ん張りどころ！来年も進んで行きましょう。

工学部 飯島 淳彦

## 活動記録 (2021 年 4 月～2022 年 3 月)

- 4 月 大説明会
- 5 月
- 6 月 わげしよの会との草刈り・  
笹の葉採集活動
- 7 月 キャンドルナイト  
地域実習報告会
- 8 月 オンライン料理会
- 9 月
- 10 月
- 11 月 学生版キャンドルナイト計画
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
- 1 月 来年度に向けた活動の見直し
- 2 月
- 3 月



8 月 オンライン料理会



8 月 オンライン料理会で作ったおにぎらず



### ホームの概要

メンバー構成： 1年生 8人、2年生 4人、  
3年生 8人、4年生 7人、  
教員 1人、職員 1人

活動地域： 新潟市西区内野町

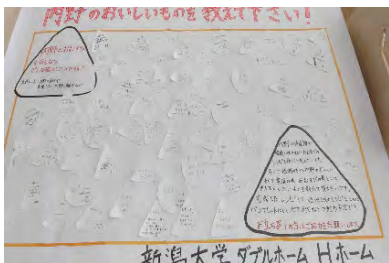
関連団体： 夢アート内野

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

### 成果物・制作物



日本文理高校の皆さんと  
一緒に作成した牛乳パック灯籠



新潟大学ガールズホーム Hホーム  
おむすび企画のために行った  
地域の方への具材アンケート

### 活動目的と概要

H ホームの活動地域は、大学近くの新潟市西区内野町です。毎年、内野小学校の子供たちに向けた灯籠ワークショップの開催、地域の方が主催するお祭り「新川ほたる」の準備への参加など、地域の方と共に活動させていただいております。私たちの活動目的は、「活動を通じて、内野とH ホームのことを知ってもらう」です。地域の方との活動を通して、地域の方や大学生に内野地域の魅力を再発見していただけるよう活動しています。

### 活動目標の達成状況

#### 【地域活動について】

私たちは地域活動に対して、今年度、「内野について知ってもらう活動や、新しい活動を行うためにも、まず学生が内野について知る」「コロナ禍の影響で弱くなった地域とのつながりを、地域活動や会議を通じて再構築する」の2点を目標に活動を行いました。今年度の活動を振り返ってみると、新たなつながりを得られたり、新たな活動ができたりした一年だったと感じました。新たなつながりでは、みらいず works の角野様を通じて、日本文理高校の生徒の方々と灯籠ワークショップを行うことができました。また、新たな活動では、シンポジウム後の第二回内野町歩きや N ホーム主催のおむすび企画に向けた地域の方へのアンケート調査などを行うことができました。これらを振り返ると、目標である「地域のことを知ること」に取り組めたのではないかと考えます。一方で、今年度はH ホームの代表的な活動である「新川ほたる」がなくなってしまうなど、地域の方と共に活動するという機会が少なくなってしまうことが課題に挙げられます。来年度は、「関係の再構築」を中心に新たな活動や学生主体の活動を中心に多くの地域の方との繋がりを深めていきたいです。

#### 【ホーム運営について】

今年度のホーム運営の目標は「学生同士の交流を深め、協力できる体制をつくる」「話し合ったものを活かせるようなミーティングにする」「引継ぎなどから活動の基盤を整える」の3点を掲げました。今年度は、昨年度より対面ミーティングを多く行い、イベント前の準備や打ち合わせを直接行うことができました。対面ミーティングを通して、学生同士の交流を図ることができたのではないかと感じます。また、ミーティング前に議題を共有し、ミーティングの効率化を図ることもできました。一方で、対面ミーティングを定期化ができなかったことや長期休暇中のミーティング回数の減少などもあったことが課題として挙げられます。今後も、積極的に学生同士の交流を図り、意見交換の活発化やアイデアの具現化に取り組めるよう活動していきたいです。そして、地域活動の活発化に繋がられるようなホーム運営を目指していきたいです。



## 活動を通して学んだこと

実際に活動地域を訪れることの大切さを学びました。6月の町歩きや12月のインタビュー活動を通じて、地域の皆さんが私たち大学生を温かく見守り、今後の活動に期待してくださっていることを知りました。今後もそのような声に寄り添える活動に関わっていききたいです。

山下 未来（理学部1年）

私は今年、思いを知ることの大切を学びました。町歩きで地域の方々のお話を聞き、地域の方々の学生への期待を知り、活動意欲につながりました。多くの意見を組み合わせ、おむすび企画も進行中です。思いを知ることを今後も、社会人になってからも大切にしていきたいです。

高橋 佳人（人文学部3年）

私は、今年度の活動から多くの方と共に活動する重要性を学びました。私は、灯籠ワークショップを担当させていただきましたがホーム内で様々な意見やアドバイスがあったからこそ成功することができました。今後も、地域の方やホーム全体で協働し、多くの活動を頑張りたいです。

高橋 香凜（経済科学部2年）

僕は今年度、新大ランドで自作の謎解き問題を出题しました。アイデア検討・準備試作・企画提案・本番制作・実行(+振り返り)と、一つの企画を実現させる貴重な経験ができました。新しいことに果敢に挑戦してみることで、さらに面白く楽しいことが起こるかもしれませんね。

荒木 雅幸（工学部4年）

## 今後に向けて

シンポジウムでの話し合いでは特に、実際に活動を起こしてみることの重要性や新たな活動方法の発見をすることができました。特に、シンポジウム後には、実際に狩野様分科会で学んだ町歩きを実践してみるなど新たな活動を行うことができました。この町歩きでは、おむすび企画のアンケートを直接町の人にお聞きすることを実践しました。参加した学生からは、町の人との触れ合いを通して、アイデアだけでなく内野の魅力を再発見したり、地域の方の温かさを実感したりすることができたという声が挙がりました。シンポジウムで学んだことを基に活動し、新たな経験を積むことができたことで、Hホームの発展につながったと感じます。

今年度はHホームが多く関わらせていただいた新川ほたるが終了するなど、Hホームにとって変化の多い年となりました。また、5月の町歩きでは、地域の方とお話を通して、学生の意見やアイデアを内野に反映していきたいとご期待の声を頂きました。今後は、シンポジウムでの学びや地域の方との交流を通して、学生主体の活動を活発的に行い、Hホームとして内野地域へ貢献できるような活動を行っていききたいです。

## 活動地域より

今後、内野町では、内野の美化運動を行っていきたくと思っています。そこで、大学生、小学生、地域住民で活動を行っていきたく協力していきたくです。また、これからの新たな活動も学生のアイデアと地域のアイデアを組み合わせるなど、Hホームの学生と多く関わっていきたくです。

西区内野町 長谷川 西雄 様

## 担当教職員より

対面での活動が再開できたと思えばすぐにリモートに逆戻りしたりで、ストレスがたまる1年でしたが、みんなで「新川ほたる」に代わるHホームの活動のアイデアを出し合ったり辛抱強く活動してきました。来年度こそ、地域の方も交えた活動ができることを信じて頑張らしましょう。

工学部 寺口 昌宏

## 活動記録（2021年4月～2022年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 ミーティング見学
- 6月 内野町歩き
- 7月 灯籠ワークショップ（日本文理高校）  
地域実習報告会
- 8月 オープンキャンパスポスター作成
- 9月 定期ミーティング
- 10月 新大 WeeK ポスター作成
- 11月 定期ミーティング
- 12月 新大ランド（Aホーム合同）、町歩き  
ダブルホームシンポジウム
- 1月 おむすび企画（Nホーム主催）
- 2月 おむすび企画：案選定など
- 3月 報告書作成



6月19日 内野町歩き



12月5日 Aホーム合同新大ランド



## 栃尾に ZOOM あい



### ホームの概要

メンバー構成： 1年生9人、2年生7人、  
3年生7人、4年生1人、  
修士以上1人、教職員4人

活動地域： 長岡市栃尾地域

関連団体： 栃尾商工会

ミーティング： 平日昼休み週1回。試験期間はお休み。

### 成果物・制作物



栃尾地域のポスターを作成し、  
地域の方へお渡ししました

あいホーム @l\_homeaburaage · 1月10日  
おましたせしまた  
ユニホッケーの感想です

ユニホッケーは誰でも気軽にできると聞いていたので、比較的やさしいスポーツだと思っていたけど、実際やってみると、ボールがとて速く転がるので、たくさん走らなければならず、思っていたよりもハードでした!!  
運動量も楽しさも想像以上でした



あいホーム @l\_homeaburaage · 1月2日  
📢 明けましたね、  
おめでとうございます。

活動の様子や感想を  
SNS で発信しました

### 活動目的と概要

長岡市栃尾地域は上杉謙信公旗揚げの地として知られるなど豊富な歴史や文化、自然に彩られた地域です。地域活動が可能になった今年度は栃尾を「学ぶ」「交流する」「伝える」といった活動を通し、with コロナの時代におけるあいホームの活動を試行錯誤しました。地域散策や懇談会、例年行っていたとちお祭や保育園訪問といった交流のほか、マップ・パンフの作成、SNS の充実等、学んだ事柄やホームの活動を広く発信していきます。

### 活動目標の達成状況

#### 【地域活動について】

今年度の目標に、活動を通して栃尾を学び、交流するとともに、SNS の活用により栃尾の人にも活動を認知してもらうことを掲げました。今年度はとちお祭参加といった例年通りの活動ができない中、新たな視点に立って活動の在り方を試行錯誤する一年でした。また、活動への意義や目的について、深く向き合った一年でもありました。

初回訪問では地域散策のほか、地域の方との懇談会やトチオンガーセブンこと星様との交流が実現し、初めての栃尾を五感で堪能しました。栃尾地域スポーツ推進委員会のみなさまとのユニホッケーを通じた交流事業は初の試みでしたが、今後の活動への新たな展望を見出すことができました。訪問が無い時はポスター作成やおむすびプロジェクトなどホーム間を越えた活動や、地域の方との Zoom 忘年会、LINE グループなど手軽な交流の場を設けられたこと、Twitter で活動成果の発表に取り組むなど、当初の目標の実現へ繋がりました。

しかしながら、いくつかの主要な訪問が中止となった上、企画止まりの活動も多々ありました。情勢の変化に臨機応変な対応が取れず、活動の機会が少なくなったことは否めません。Twitter では、活動を栃尾の方々や他の学生に広く伝えられたとは言えず、発信する内容や対象を明確に考えていく必要があります。ホームの今後の方向性を明確化し、育まれたアイデアや活動をどう判断して実行へ移していくか、といった点が課題です。

#### 【ホーム運営について】

今年度は、役割分担によってメンバーがそれぞれのペースで活動に加われる環境を作り、直近の目標を見据えて達成感を可視化できるようにする、学年を越えたつながりと居心地のいい環境作りを目標に掲げました。分担は短期的に前期と後期に分け、ホーム長・副長の下、希望するメンバーを編成して担当部局を作り、それぞれの部局が達成状況の報告や相談を行う形を取りました。それにより、同時期に複数の計画を進められた他、メンバーの活動頻度に応じた環境を作ることができました。しかし分担や活動、訪問に参加できないメンバーが出てきてしまった他、通常のミーティング参加者も限られてしまうなど、縦・横のつながりやメンバーの交流を深める点では至らぬ点が多く、目標の達成には遠い形になってしまったと言えます。



## 活動を通して学んだこと

私はダブルホームの活動を通して、地域の人や先輩方など、忙しい中でも私たちに時間を割いてくれる方々への感謝を忘れてはならないということを学びました。今後も出会いやご縁を大切に、お世話になった人への感謝の気持ちを伝えながら活動していきたいです。

阿部 春奈（経済科学部 1年）

今年度は前年度から構想していた様々なことを形にすることができました。新たなことに挑戦するには実行までに時間と労力を要しましたが、その分活動で充実感や達成感を得られました。昨年があったからこそ、ホームの躍進と地域への思いが向上できた1年だったと感じます。

本間 珠寿（創生学部 2年）

約1年間のIホームでの活動や栃尾の方々との交流を通して、コミュニケーションの重要性を学ぶことが出来ました。そこから、自分からアイデアを出すことの難しさも感じました。来年度は、この反省点をいかしつつ、よりコミュニケーションをとることが出来るように活動に励みます。

米澤 里穂（法学部 1年）

今年は栃尾で活動ができたのがなにより嬉しかったです。初めての栃尾訪問でした。今までにはなかった活動として、ユニホッケーというスポーツを地域の方と行いました。とても楽しかったので、この新たな繋がりをこれからも大切にしていけたらいいなと思っています。

出澤 陽立（経済科学部 2年）

## 今後に向けて

シンポジウム後、地域の方が「栃尾を学ぶことで今後の自分の糧にすることが一番。興味を持って気軽に栃尾へ訪問し、祭りに参加するなど、いろいろな人に会ってみることが大事」と助言をくださり、実際に地域訪問を重ねることで地域との接点が増え、活動の原動力になっていくことを感じました。次年度は訪問を重ねていく中で、今年度得られた栃尾との新たな関わりを大切にしながら、活動の目的を考え、アイデアを実行へ移せるようにしていきたいです。また、状況の変化に応じて新しい活動を考えたり、従来の計画を見直したりするなど、臨機応変な対応を心がけていきたいです。

ホームの運営面では、同学年や学年を越えたつながりを深くしていく必要があると感じました。メンバー全員が一度に揃うことはできないとしても、メンバー間が交流で結び付くことで、普段のミーティングをはじめ、活動がより充実していくのではないのでしょうか。居心地の良いホームの実現へ向けて、対面ミーティング後の食事など、簡単なふれあいから始めていきたいです。

## 活動地域より

日頃より栃尾地域について学び、地域住民の皆様との交流を大切にさせていただきありがとうございます。私たちはあいホームの皆さんとの出会いをとっても楽しみにしています。今後とも更に交流を図り、この活動での貴重なご縁を喜び合い、これからも楽しんでいきましょう。

栃尾商工会青年部 松生 健太 様

## 担当教職員より

昨年度から引き続き制約も多い1年でしたが、色々工夫しながら活動することができていたと思います。中止になってしまったイベントや活動もありましたが、検討したこと等は今後様々なところに繋がってくるはずですよ。ぜひ頑張ってください。

創生学部 並川 努

## 活動記録（2021年4月～2022年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 令和2年度加入生地域散策（中止）
- 6月 初回地域散策・地域の方との懇談会
- 7月 地域実習報告会
- 8月 地域の方へのホーム広報配布
- 9月 Twitterによる広報活動（通年）
- 10月 Iホームポスター作成
- 11月 栃尾ユニホッケー交流会、ポスターの配布、LINEグループ作成
- 12月 地域の方とのZoom忘年会  
ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月 とちお遊雪まつり運営（中止）  
双葉保育園訪問（中止）
- 3月 おむすびプロジェクト



6月12日 地域の方との懇談会



11月6日 栃尾ユニホッケー交流会



**ホームの概要**

メンバー構成： 1年生7人、2年生8人、  
4年生6人、教員2人、  
職員3人

活動地域： 山形県小国町樽口地区

関連団体： 樽口観光わらび園

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

**成果物・制作物**

料理コンテスト  
わらびと野菜の天ぷら



料理コンテスト  
わらびの炊き込みご飯とおひたし

**地域との対話～一歩前進～****活動目的と概要**

Jホームが活動している山形県小国町樽口地区では、集落全体で「樽口観光わらび園」の運営を行っており、私たちはそのわらび園のお手伝いを中心に活動しています。樽口地区を盛り上げるための大学生らしいアイデアを地域に提案することを目指し、地域を理解するための土台をつくる活動を行ってきました。また、料理コンテストなどのイベントを通して新潟でも樽口のわらびについて知ってもらおう活動も行っています。

**活動目標の達成状況****【地域活動について】**

今年度も昨年度に引き続き「地域との対話～一歩前進～」を目標として活動してきました。昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響が長引き、地域を訪れての活動が著しく制限されたため、1度しか樽口地区を訪れることが出来ませんでした。しかし、昨年度は1度も訪問がかなわなかったとのことで、この点については進歩があったのではないかと思います。

また、地域に行かなくても出来る活動を積極的に行っていこうということで昨年度も行った「料理コンテスト」を開催しました。樽口地区から送って頂いたわらびを使った料理を皆で作ることで、実際に行くことは出来なくても地域に関わる活動を楽しむことが出来ました。

**【ホーム運営について】**

今年度のホーム運営についての目標は昨年度と同じく「ホームの学生間で目的や活動趣旨を把握する」「地域の方々と学生全員が関われるようにする」「ミーティングの参加率を高める」の3つでした。これらは今年度に関しては達成状況があまりよろしくなかったように思います。地域活動に行ける機会が少なく、オンラインでのミーティングが続く中で学生間での情報共有の難しさを感じました。実際に活動にほとんど行けず、地域の方との交流手段も少なかったため、お話をする機会に恵まれなかったことも大きかったと痛感します。これら2つについてはコロナの影響が無くなれば打開されると思うのでコロナの収束を期待したいです。ミーティングの参加率に関しては、来年度はもう少し対面ミーティングの回数を増やしていき、交流の機会を設けることを通して、意見交換を活発に行い学生間でのチームワークを構築していきたいと思っています。

## 活動を通して学んだこと

コロナの影響のため、県外に位置するこの小国町の地区に行けたのは1度だけでした。そのためホームの仲間たちと実際に会う機会の少ない状態で活動を行ってきましたが、そんな状況の日々の活動の中で、積極的な行動が大事だということと、協力して物事を進める大切さを痛感しました。

小檜山 涼雅（経済科学部1年）

今年度は、新型コロナのため現地に行くことが少なかったのですが、ズームで活動を存続させることが出来ました。このことで、臨機応変な対応が出来たと思います。これからの環境の変化はわかりませんが、その時々でも対応を変えJホームとして活動していきたいと思っています。

榊原 遥（人文学部1年）

今年のJホームでは、活動に制限があったものの、久しぶりに地域での活動を行うことが出来ました。そこで、実際の地域の様子を共有することで、地域の現状を知ることができ、そこからどうしていくかをホームの皆で考えることが出来ました。

菊池 亜佑（工学部2年）

地域の方との交流が難しい中で、後輩は本当によくがんばったと思います。ダブルホームに限らず地域活動は、様々な人に会うほか、企画をして達成感を得たりするなど、とても楽しいものです。これから彼らが楽しい活動ができるように、私も引き続きサポートしたいと思います。

原 彩峰（農学部4年）

## 今後に向けて

今年度は、新型コロナの流行のため、思うように地域活動ができない状況でした。地域に直接行けない分、自分たちには何ができるのか試行錯誤する一年となりました。

来年度からは、地域の方とより交流ができる一年にしたいと考えています。現地に行けない場合でも、より地域の方と深い交流をするにはどうしたら良いのか話し合っていきたいと考えています。今年度行った、瓦版の作成や、料理コンテスト以外にもSNSを利用した活動など、いま私たちにできることを話し合っていきたいと思っています。

また、ホーム内の活動では、個々のモチベーションや積極性が低下を感じることもありました。今年度はオンライン上でのミーティングが多く、ホーム間でもなかなか交流ができない状況でした。活動に対する個々の思いも、ばらばらになり、それを話し合う機会も少なかったため、モチベーションの低下に繋がっていったと思います。来年度からは学生間の交流も深め、個々が積極的に活動に参加することも、一つの目標としていきたいと思っています。

来年度も厳しい状況の中での活動となるかもしれませんが、ホームのみんなが楽しめる地域活動にしていきたいと思っています。

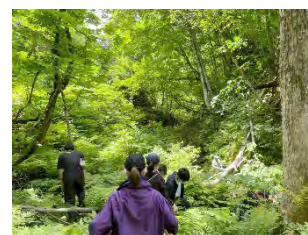
## 担当教職員より

収まる気配のない混沌とした状況下で、ホーム活動もその基盤を揺るがしかねないほどの制約が続いています。わらび料理の紹介など、現在できることを継続する一方、皆さんにとってホーム活動とは何かを改めて問う必要もありそうです。各所と連携を取りつつ、後悔なきようしっかりと考えてください。

法学部 石畝 剛士

## 活動記録（2021年4月～2022年3月）

4月	大説明会
5月	
6月	小国町での地域活動
7月	地域実習報告会
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	料理コンテスト ダブルホームシンポジウム
1月	
2月	
3月	



6月20日 樽口地区の沢にて



6月20日 わらび園の山頂から





### ホームの概要

メンバー構成： 1年生 9人、2年生 8人、  
3年生 7人、4年生 11人、  
教員 2人、職員 2人

活動地域： 新潟県加茂市

関連団体： 加茂青年会議所

加茂商工会議所青年部

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

### 成果物・制作物



あかりばの際に作成した  
「竹あかり」



加茂市でのまち歩き

### 活動目的と概要

私たち K ホームは新潟県加茂市で活動を行っています。加茂市は「北越の小京都」といわれるほど歴史を感じさせる場所であると同時に地域の方々同士の結びつきが強く、とても居心地がいい場所だと感じています。そんな加茂市で私たちは「大学生の私たちにしかできないことは何だろう」と常に考えながら地域の魅力を伝える広報活動やインターンシップ活動、さらには加茂市の子供たちと交流を深める活動に力を入れています。

### 活動目標の達成状況

#### 【地域活動について】

K ホームは今年度の地域活動の目標として、「加茂の魅力を発信するために、地域の方々と一緒に学び合い、地域に対する理解を深める」「これまでの活動ではどちらかというと大人と接することが多かったため、加茂市の子供とも積極的な交流を行えるようにする」の2つを掲げました。

1つ目の目標は、ある程度達成できたのではないかと考えます。今年度は地域を訪れた際に加えオンライン上でも地域の方と話し合う機会を設けてきたため、それぞれの考えを共有し、地域の方と学び合うことができましたと思います。しかし、ホームミーティングへの学生の参加率が低下しつつあるため、学生間のコミュニケーションが足りていないことが今後の課題として挙げられます。

2つ目の目標に関しては、今年度から「ぶらかも」というグループをホーム内に設け、小中学生との交流に関する企画を立案することに特化できるようにしたため、大人だけでなく子供との繋がりが深くなったと感じています。

#### 【ホーム運営について】

私たちは、今年度のホーム運営の目標として、「メンバー間の信頼関係を深め、共に活動したいと思えるホームにする」「加茂市に自ら訪れたいと思えるようになる」「目標に基づいた活動を行い、参加意義を高める」の3つを掲げました。

1つ目と2つ目については、ある程度達成できたと考えています。活動の機会が少ないからこそ、その機会を大切に作る気持ちが生まれたと感じるためです。ただし1つ目は、関係をさらに深める機会がやはり乏しいこと、定期ミーティングの参加者が固定しつつあることなど、課題に思うところでもあります。

3つ目については、メンバー間での目標の共有やその達成具合を振り返る機会が不十分であり、達成できなかったと考えています。また、役割分担によって担当ごとに企画を立案するようになったため、ホーム全体の目標が不明瞭になる可能性が出てきたと感じています。全体として、各担当として、個人として何をしていきたいのか、そうした思いを話し合う機会を大事にし、その上でどうやって活動していけばいいのか、全員で考えていければと思います。



## 活動を通して学んだこと

僕はダブルホーム活動を通して、自分から積極的に行動することと自分の仕事に責任を持つことの重要性を学びました。また、実際に加茂市を訪れると私たちは地域の方々から期待していただいていると実感できるため、これからも身を引締め活動に参加していきます。

杉木 昂太（経済科学部1年）

地域の方の強い繋がりや熱意を感じたと共に、挑戦することの大切さを学びました。加茂市には魅力的なイベントがたくさんありますが、それに加え昨年Kホームでは3つの新たな試みを始めました。訪れる度発見できる加茂市の魅力を、沢山のの人に伝えていきたいです。

池乗 伶奈（法学部2年）

私が三年間で学んだことは、ダブルホームには新たな発見があふれていることです。ホーム内でのミーティングを通してチームをまとめることの大変さ、その乗り越え方を、地域活動を通して加茂には故郷を盛り上げたいという想いを持った熱い人がたくさんいることを知りました。

井之川 諒祐（人文学部3年）

私は、ダブルホームを通して何かアイデアを出すときに自分の考えに加え他の人の意見を参考に、柔軟な考え方をすることができました。また、加茂の問題を考えるときに、自分が訪れた時に何が欲しいかなど物事を客観的に捉えることを学びました。

森下 幸彦（工学部4年）

## 今後に向けて

Kホームでは、今までは加茂市で開催されるイベントにブースを出店する形で主に活動を続けてきましたが、昨今のコロナ禍で直接地域を訪れることが難しくなりました。

そこで、「①小中学生を対象とした交流活動」「②学生の専門分野を活かした活動」「③地域の魅力を伝える広報活動」の3つを新たに始めました。特に今年度は①の活動に力を入れ、オンラインでも加茂市の小中学生とふれあえるようなイベントを企画開催しました。

我々Kホームの1、2年生も2回ほどの街歩きを経て加茂市の魅力を知り、地域の課題について理解を深めてきました。その課題の1つに、「加茂についてたくさんの人に知ってほしい」ということが挙げられます。来年度はもっと地域を訪れ、交流しながら、②③の活動も精力的に行い、こうした課題を解決する手助けができれば、と思います。そのためにはKホームの皆さん、教職員の方々、そして地域の方々の協力が不可欠です。来年度も何卒よろしく願いいたします。

## 活動地域より

皆さん、いつも加茂まで来てくれて有難うございます。今は活動が制限されていて残念だと思いますが、新しい様式での活動や行動は、皆さんの学びや成長にも繋がることだと感じます。一つずつ大切に過ごし頑張ってください。皆さんに加茂の地で逢えること楽しみにしています！加茂にカモ〜ん！！

まちづくり学校 田中 洋志 様

## 担当教職員より

「これって、ワクワクする？」その一点で、加茂での新たな活動を決めるのにもあります。なぜか。学生のワクワクに満ちた活動は、大人の発想を超え、地域の新たな価値を生み出す可能性を秘めているからです。失敗してもいいのです。加茂市の方々もきっと同じ思いですヨ。大いに期待しています！

経営戦略本部 樋口 健

## 活動記録（2021年4月～2022年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 まち歩き
- 6月
- 7月 まち歩き  
地域実習報告会
- 8月
- 9月 あかりば
- 10月
- 11月
- 12月 クリスマスイベント  
ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月 まち歩き



9月14日 あかりば



7月11日 まち歩き



## ホームの概要

メンバー構成： 1年生8人、2年生10人、3年生12人、教職員2人

活動地域： 新潟市坂井輪中学校区

関連団体： 坂井輪中学校区まちづくり協議会

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

## 成果物・制作物



子ども食堂（冬）でのバスボムづくり



一年生が作ったLホームのポスター

## 活動目的と概要

私たち L ホームは新潟市西区坂井輪中学校区で活動しています。活動目的は「学生と地域の方のつながりを作り、広げていく」ことです。週1回程度のミーティングを行い、より良い「つながりづくり」のため学生同士で話し合っています。それに加え、坂井輪中学校区まちづくり協議会さんを始めとする自治会の方々と話し合いも活発に行っています。主なイベントとしては「子ども食堂」や「まちあるき」などがあります。これらの活動の実施、さらには計画や振り返りを行い、日々「つながりづくり」のために楽しく活動しています。

## 活動目標の達成状況

### 【地域活動について】

「非対面の期間でも坂井輪とLホームの関係を絶やさず、つながりをより深く、強いものにする。そのためにも、今までよりも一歩踏み出した関わり方にチャレンジしよう！」というのが今年度の地域活動における目標でした。

今年度は「子ども食堂」や「まちづくり協議会の方々と顔合わせ」といった対面での活動を再開できたので、対面と非対面の両方でつながることができました。このつながりは、非対面で行った活動が対面で行う活動にしっかりと活かされていることを実感させてくれました。

新たな取り組みもありました。「防災ワークショップ」です。いつもお世話になっている女性支援隊の皆さんが中越防災士の方々をお招きになり、防災や防災食について研究する会です。コロナ禍の中でも新たな活動に参加できたことは、坂井輪とLホームのつながりを強くするだけでなく、さらなる対面の活動、その計画や準備などの非対面の活動へのモチベーションを高めてくれました。

### 【ホーム運営について】

「ホーム全体で楽しく、主体的に活動できるホームであること。目標に対し、しっかりと計画・準備をして活動に臨むこと。全員が話しやすいミーティングであること」これらが今年度のホーム運営目標でした。

今年度は昨年度に引き続き、ミーティングは非対面がメインでした。話す内容をあらかじめ、おおまかに決めておくことでスムーズなミーティングになりました。話題の募集（時々）はホーム全体の主体的な活動を促していたように思えます。

また、役割分担をしっかりと行えたことも活動の主体性を高める要因になっていたと考えられます。全体の話し合いから個人個人のすべきことを明確化できたので、程よい責任感を持ちつつも自由で楽しい活動ができた実感しています。

ですが昨年度に引き続き、非対面ミーティング時の発言の少なさが課題だと考えられるので、対面時との比較などを通じて解決への道をこれからも模索していきます。



## 活動を通して学んだこと

昨年度よりも対面という形で活動を行う機会が増えたのは嬉しかったです。その限りある活動を良いものにしようとこれまでよりも深く考えていたと思います。坂井輪地域の方や子どもたちのエネルギーを強く感じ、僕が元気づけられました。

五十嵐 太一（経済学部3年）

活動を通して、坂井輪地域の魅力や地域の方の坂井輪をより良い地域にしたいという思いを知ることができました。地域を良くしていくためには、様々な人と協働することが大切であり、地域の方やホームメンバーの協力のおかげでより良い活動を行うことができていると学びました。

廣田 奈月（経済科学部1年）

子ども食堂の運営における裏方の視点を学びました。「何をすれば子供たちが喜ぶか」だけではなく、安全・費用面といった「確実に会を成功させるために何をすべきか」についても考える機会となりました。今まで参加者視点の考えをすることが多かったため、新しい見方を得られました。

三浦 あかり（経済科学部2年）

私がLホームの活動を通して学んだことは、地域活動の豊富さです。私たちは、よく地域活性と言いますが、実際、その地域を見ると、各地域で独自の活動をしています。それもまた活性しているといえます。そのため、実際に地域に行き、地域を知る大切さも学びました。

川口 竜誠（経済科学部1年）

## 今後に向けて

2021年度は非対面の期間を経て、つながりがさらに強くなったと感じられる一年間でした。この一年間をこれからへとつなげるために、シンポジウムの内容を振り返ってみます。

地域の方からは「どうやって発信していくか」について伺いました。ホーム内での情報共有→地域との交流→外部への発信という流れで活動は進みます。この流れの中で発信が目的だとしても、交流は勿論のこと、情報共有もより良いもののできるよう活動することが大切とのことでした。

Lホームの学生間では「交流の機会」について話し合いました。非対面期間にはZoomを用いたお話し会、対面期間では活動地域に訪れる機会を増やしたいという意見が出ました。地域の方だけでなく、ホーム内の学生同士で交流をしたいという意見もありました。

一年間を振り返り、2022年度へ向けた新たな課題や目標が見えてきました。特に、「学生主体の地域活動」へのチャレンジは（難しいですが）、Lホームをもう一歩前に進ませてくれると考えられました。非対面の活動を活かし、様々な面からつながりを広げられそうで、とてもわくわくしています。

情勢は目まぐるしく変わっていきませんが、気持ちはまっすぐ、来年度も楽しく活動していきましょう。

## 活動地域より

2年越しで続くコロナ禍の中で、それぞれ普通の2倍もの努力と知恵を出して取り組みを前に進め、できる範囲で活動を続けてきました。Lホームの皆さんからもその都度子ども食堂や、女性支援隊などの活動に参加いただき感謝します。この経験は次のステップにつながると思っています。

坂井輪中学校区まちづくり協議会会長 梶原 宜教 様

## 担当教職員より

今年度は子供食堂が再開し、一部ですが地域の皆さんとの対面による交流が実現しました。学生の活動に対する意欲と熱意、そして地域の皆様のご協力に感謝いたします。

引き続き、ウィズコロナにおける活動の工夫や充実に向けて頑張ります。

創生学部 澤邊 潤

## 活動記録（2021年4月～2022年3月）

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月
- 7月 子ども食堂（～8月）  
まちづくり協議会さんと顔合わせ  
地域実習報告会
- 8月
- 9月
- 10月 （代替わり）
- 11月 防災ワークショップ
- 12月 ダブルホームシンポジウム  
子ども食堂（～1月）
- 1月
- 2月
- 3月



11月の防災ワークショップ



子ども食堂（夏）でのお昼ごはん





### ホームの概要

メンバー構成： 1年生 9人、2年生 10人、  
3年生 5人、4年生 3人、  
教員 2人、職員 1人

活動地域： 新潟市中心部万代地区

関連団体： NST 新潟総合テレビ

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

### 成果物・制作物



制作物第 1 号の N ホームのロゴです！  
万代シティのシンボルであったレインボータワーからヒントを得て、ホームカラーを虹色にしました。



10月の新大Weekで作成したPRポスターです。学生が万代に行った際に撮影した写真をコラージュし、魅力を凝縮したポスターとなりました。“シティじゃなくてシティです。”というキャッチコピーに注目です！

### 活動目的と概要

新潟市万代シティを拠点に地域の魅力を発信するだけでなく、他ホームとの連携によるダブルホーム全体の情報発信をすることも目的として今年度誕生したホームです。

今年度は、テレビ局である NST や万代シティの皆様をはじめ、新潟市中心部で活動なさっている方々と共に様々なイベントに携わりました。

### 活動目標の達成状況

#### 【地域活動について】

活動当初は、①次年度以降に向けた土台作り、②地域の現状把握と課題の明確化、③一人一人ができることを見つけ、活動を充実させることを目標に掲げていました。

今年度は、N ホーム独自での活動として地域散策と NST まつりでのライブ配信を行いました。万代や新潟市で働いている方々とお話をする中で、地域で求められていることやこれからの地域のビジョンを各メンバー同士で話し合い、今後の活動につなげています。その1つとして、「エンタメ部」を立ち上げ、Instagram や YouTube での魅力発信を通年の活動とするために取り組んでいます。

また、地域の魅力を発信するポスター制作・PV作成、おむすびによるつながりの拡大・強化を目的とした「おむすびえんむすびプロジェクト」を他ホームとともに行いました。（おむすびえんむすびプロジェクトは現在も進行中。）

1つのホームが中心となって他ホームとともにプロジェクトをおこなうという前例がなかったため、活動に関心を持ってもらう点や活動のインセンティブを説明する点は、とくに知恵を出し合って進めていきました。活動のなかで学生自らが考え、実行に移すという目標を達成するにはまだ十分とは言えませんが、少しずつ達成へのステップを踏むことができています。

#### 【ホーム運営について】

年度初めには、①感染症対策の徹底、②多くの人が話せる環境の形成、③NST の方々との連携・信頼関係の形成を運営の目標に掲げていました。対策を徹底しつつ、変化する状況に合わせて柔軟な計画を立てられた点、NST の方々との連携という点は達成できました。一人一人が話しやすい環境を作る点については次年度も継続して取り組む必要があります。

## 活動を通して学んだこと

地域の魅力発見・発信を通して、多方面への関わりを持たせたことが、大きな収穫でした。特に学校という枠組みを出て、様々な経験を持つ人たちと交流していく中で、物事を見る時のフィルターが取れ、穿った見方ができるようになりました。

森川 皓太 (人物学部1年)

話し合いの大切さを学んだ1年でした。誕生1年目で、何をするにも前例のない中でしたが、悩んだ時はメンバー間で時間を作って話し合い、解決策をみんなで考えたことを覚えています。この話し合いの気風を大事にし、次の1年も駆け抜けていきたいと思えます。

板垣 薫 (人文学部2年)

私は2つのホームを兼任しており、異なる環境で活動をしてきました。その中で地域独自の課題や特徴を捉え、自分の専門分野と結びつけた考え方を学びました。また短い期間でしたが、代表を経験して自身の役割を果たすための実行力を高められたと感じています。

坂田 功星 (経済学部3年)

新しいことを始める難しさと面白さを、改めて感じる事ができた1年でした。全員がNホーム1年目であった今年度、学年を越えて連携して交流を深めていくみんなが、本当に頼もしかったです。これからNホームがどんなカラーに輝いていくのか、とても楽しみです！

荒木 雅幸 (工学部4年)

## 今後に向けて

今年度の活動では、NST 新潟総合テレビの皆様をはじめ、活動の中で様々な企業、団体との縁を結ぶことができました。次年度はおむすびえんむすびプロジェクトをはじめ、本年度の地域活動を通して結んだ縁をより深めていくと共に新たな縁を結んでいきます。

また、個性豊かなメンバー一人一人がホームで活躍できることを目指し、得意分野を活かしたコンテンツの作成とSNSで発信することでやりがいの創出とホームの魅力の向上を目指します。

次年度はNホーム発足2年目に突入します。今年度の活動は制約がある中でも地域で毎年開催されているイベントに参加することができました。長期的な目標となりますが、この経験をベースにNホームの伝統を作っていきたいと思えます。

## 活動地域より

感染症拡大の影響が収まらない中、NSTまつり参加や番組出演、PR発信など、可能な限りで万代地区の活性化にご協力いただきありがとうございました。来年度はさらに活動を加速化させ、皆さんのアイデアと実行力をいかながらNホームと一緒に盛り上げていきたいと思えます。

NST 新潟総合テレビ 齋藤 信明 様

## 担当教職員より

今年度から新たにスタートしたNホーム。私も初めてダブルホーム活動に携わるという状況で、手探りの日々でしたが、皆さんの熱意に圧倒された一年でもありました。これからもホーム員同士アイデアを出し合って、共に万代地域を盛り上げていきましょう！

総務部総務課広報推進係 春日 智啓

## 活動記録 (2021年4月~2022年3月)

- 4月 Nホーム始動 大説明会
- 5月 初実習 (クリーンウォーク)
- 6月 新加入生地域実習 (万代散歩)
- 7月 地域実習報告会
- 8月 万代PR用PV作成
- 9月 NSTまつり・5G実証実験
- 10月 新大WeeKポスター・PV作成
- 11月 おむすびえんむすびプロジェクト開始  
佐藤智香子様ワークショップ
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月



6月9日 万代散歩



9月25日 5G実証実験



**ホームの概要**

- メンバー構成： 1年生 6人、2年生 5人、  
3年生 8人、4年生 7人、  
修士以上 1人、教員 3人、  
職員 2人
- 活動地域： 村上市早稲田地区
- ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

**成果物・制作物**



10月の地域活動・学生発表交流会において「かわら版を手書きにしてよりあたたかみのあるものにしてみては」との助言をいただき、一部かわら版を手書きで作成いたしました。



11月の地域訪問において、直前にあった井上有紀さんのワークショップからヒントをもらい、課題解決から入らない姿勢を大切に、地域の方と学生によるワークショップを実施いたしました。

**活動目的と概要**

自然豊かな村上市早稲田地区をフィールドに活動しています。しめ縄づくりや才の神などの地域行事では地域の歴史や伝統を学び、収穫祭や地域の神様をまつる大平山登山、三吉様参拝などの活動を通して、早稲田地区の理解につなげます。また、学生による「早稲田発見！クイズラリー」のような学生企画も行い、早稲田地区を盛り上げることも視野に、活動しています。

今年度は、2年ぶりに早稲田地区に足を運ぶことができ、1、2年生は初めて地域を自らの足で歩くことができました。また、かわら版を毎月発行し、地域とのつながりも絶やさず、地区の様々な方と対話をする機会もつくることができました。

**活動目標の達成状況**

**【地域活動について】**

- 今年度の地域活動の目標は、以下の4つです。
- 1つ目は、オンラインも活用し、地域の方々との関係をより深めることでした。今年度は、オンライン交流会や地域での活動では対話をメインにした活動を行い、地域の方々としっかりと対話ができ、関係を深めることができましたと思っています。
- 2つ目は、地域のことや地域の方々のことをよく知り、お互いに考えやアイデアを言い合えるような関係の構築を目指すことでした。今年度はオンライン交流会でも11月の地域訪問でも、小グループに分かれて学生と地域の方々が意見を交換でき、そのような関係の構築はできたのではと思っています。
- 3つ目は、オンラインの活動も取り入れながら、対面型の地域活動も行い地域との交流を絶やさないことでした。今年度は対面型の地域活動を2回実施でき、オンラインでの活動やかわら版の活動などにおいて、交流は絶やすことなくできたと思っています。しかし、オンラインの交流はもっとできたのではないかもと感じ、来年度の課題でもあると思っています。

4つ目は、学生企画などを通して、若い世代との交流、若い世代の活動参加率を高めることでした。今年度は、11月の地域活動において、区の役員さん以外の方にも参加していただき、また子育て世代の若年層の住民とも関わることができ、この点は一歩前進したのではないかと評価できます。

**【ホーム運営について】**

- 今年度のホーム運営目標は以下の3つです。
- 1つ目が、互いに声掛けをし、参加しやすい雰囲気をつくることでした。ホーム内でのリマインドはしていますが、学生同士の交流が希薄なせいか対面ミーティングにおいて誘い合っていく様子が見えなかった点は反省しています。
- 2つ目が、かわら版やSNSを全員で協力して行うことでした。かわら版については、定期的な発行ができましたが、SNSについては、1人に負担をかける形となってしまいました。
- 3つ目は、学生同士の親睦を深めることでした。コロナ禍で難しい部分ですが、引き続きしかけを作っていければと思っています。



## 活動を通して学んだこと

地域との繋がりをどう維持していくのかをホーム内でよく話し合った1年だったと思います。2回目の地域訪問では、井上有紀さんのワークショップで学んだそれぞれのやりたいことや「心が動いた瞬間」を共有しあう事の大切さを改めて実感しました。

中田 七生（経済科学部1年）

2年生になって初めて早稲田地区に実際に行くことができました。今までは、オンラインでしか会ったことがなかったのですが、実際に会うからできるお話などがあり、会うことの重要さを感じ、直接お会いできたことへ感謝をしています。

平岡 颯太（創生学部2年）

ゼミ等が忙しく、あまり活動に参加できませんでしたが、2年生を中心にQホームが成長していくのをひしひしと感じました。私たちが卒業するまでに、三吉様参拝や収穫祭などの活動を後輩たちと実際に行い、Qホームの伝統を1つでも多く継承できることを願っています。

佐藤 愛結（農学部3年）

オンライン中心の活動でした。そのため、早稲田地区での行事・体験活動、そのすべてに参加することができている学生は、少ないです。だからこそ、アフターコロナに向け、対面活動を豊富に経験した4年生として、地域活動の魅力を伝え、Qホームの持続性を高めることができました。

伊藤 優希（教育学部4年）

## 今後に向けて

今年度は、昨年度から続いているオンラインでの活動に加え、地域に実際に行っている活動も実施することができました。今年度も、定期的な「かわら版」の発行や「SNS」の活用などによって地域との繋がりを深めることができました。この点については、来年度も継続させていき「地域に行かなくてもできること」を引き続き模索しながら活動していければと思っています。また、今年度は、7月には地域内を探索し、全身を使って早稲田地域を堪能しました。そして11月には地域の役員さん以外にも、子育て世代の方や地域内の様々な組織の代表の方などと対話をする機会をつくり、地域理解につながったとともに、今後の活動へのヒントを得る良い機会となりました。

シンポジウムやダブルホームワークショップでは多くの学びがあり、「課題解決から入らない姿勢」を井上さんのワークショップから学び、すぐに活かすことができました。

また、今年度は対面での活動を増やすことができましたが、まだまだホーム内の交流は不十分で、来年度はホーム内の親睦を図れるようなしかけをつくり、「オンラインミーティングで物理的な距離が離れても、心の距離は離れずに」を合言葉にしていければと決意しております。

## 活動地域より

令和3年度もコロナ禍の中での、Qホームの皆さんの活動ご苦労様でした。今年度は皆さんの努力により、7月には1、2年生の皆さんを中心に、11月には子育てのお母さんや各年代の方々との交流ができ、成果のある活動であると評価しています。来年度はさらに交流ができることを願っています。

村上市早稲田地区 区長 富樫 敏栄 様

## 担当教職員より

今年度は現地で地域の方々との直接の交流ができました。温かく迎えてくださった地域の方々に感謝いたします。交流の際、大学内の学習を活かそうとする学生の姿勢が印象的でした。現地を肌で感じ、直接交流することを経験した学生が、来年度以降の展開をどのように考えるのか。楽しみにしています。

経営戦略本部 斎藤 有吾

## 活動記録（2021年4月～2022年3月）

- 4月 大説明会
- 6月 かわら版発行  
地域の方との Zoom ミーティング
- 7月 かわら版発行  
早稲田地域探索、地域実習報告会
- 8月 かわら版発行
- 9月 ホーム内オンライン交流会
- 10月 地域活動・学生発表交流会参加
- 11月 かわら版発行  
早稲田地域ワークショップ
- 12月 かわら版発行  
ダブルホームシンポジウム
- 2月 かわら版発行  
地域活動・学生発表交流会参加
- 3月 かわら版発行



7月18日 早稲田地区内にて



11月21日 早稲田研修センターにて



### ホームの概要

メンバー構成： 1年生 6人、2年生 8人、  
3年生 11人、4年生 8人、  
修士以上 3人、教員 2人、  
職員 1人

活動地域： 阿賀町七名地区

関連団体： 阿賀町上川支所、阿賀町勝  
手に応援団、七福荘、地域  
おこし協力隊、とんぼの会

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

### 成果物・制作物



収穫直前の実ったそば



唐箕掛けをしたそばの実

### 活動目的と概要

私たち R ホームは、山に囲まれた自然豊かな阿賀町七名地区を活動の拠点としています。七名地区はそばが有名で、従来私たちはそば作りを中心に一年間活動します。種まきから収穫、唐箕がけを経てそば粉にし、最後は地域の方にそばをふるまいます。また、七福の里祭りや上川そば祭りなどのお祭りにも参加し、地域の方との交流を深めます。コロナ禍においてはできる活動に限られるので、ひとつひとつの機会を大切にし、積極的にコミュニケーションをとることを意識しています。

### 活動目標の達成状況

#### 【地域活動について】

今年度は様子を見ながら何度か地域に行き活動することができたので、目標である「地域の活動に対する理解を深める」を達成できたと考えています。6月に行った地域散策では、新入生だけでなく、2年生にとっても初めての訪問だったので地域を知るという意味でかなり有意義な時間となりました。そして、8月~11月にかけてのそば作り体験では、地域の方とのコミュニケーションを大切にしながら、普段なかなかできない貴重な体験に集中して取り組むことができ、ホームメンバーの積極的な姿勢が見られました。

また、これらの地域で行った様子などをかわら版にまとめることにも取り組んだので、「広報活動を継続する」という目標も達成できました。

しかし、活動の時以外は地域の人と話す機会が少なく、ミーティングにお呼びすることも少なかったため、「地域の人と学生の活動意識を一致させる」という目標に関しては、来年度の課題としても引き続き設定する必要があると感じました。

#### 【ホーム運営について】

今年度のホーム運営に関する目標は全部で四つありました。一つ目は「全員が発言しやすい工夫をする」、二つ目は「学年間での深い交流」、三つ目は「高学年から低学年への情報継承」、四つ目は「各メンバーへの役割分担」という内容でした。

一つ目に関しては昨年に引き続き、あまり発言が少ない人にも話を振るなどの工夫をして目標の達成を図りました。二つ目に関して、今年度は地域での活動ができたため、メンバーどうしが実際に会える機会が多く、学年間の交流も少しずつできたのではないかと思います。三つ目に関して、地域での活動の際に先輩が後輩に地域についての思い出話や活動のアドバイスをしている風景が見受けられたので達成できたと思います。四つ目に関しては、運営を担う三年生だけでなく下級生にも仕事を割り振ったことで役割分担ということ以上に学年間の繋がりを深めることにもなったのでかなり効果的でした。



## 活動を通して学んだこと

活動の中で、限られた回数ではありましたが、阿賀町の上川地区へと訪問させていただきました。この訪問を通して、阿賀町の観光施設や観光資源、阿賀町が現在抱える問題などを知ることができました。今後はさらにこうした阿賀町の魅力を発信し、町全体を盛り上げていく必要があると感じました。

豊島 颯 (工学部 1年)

私は今年度の活動を通して学んだことの中で一番印象的なことは、多面的視点を以前より持てるようになったことです。代表を務めさせて頂いたので地域の方、教員の方、学生とより身近に関わる中で、多様な意見を聞き、考え、取り入れる機会を頂けたからだと思います。

豊増 唯 (理学部 3年)

今年度は初めて地域に行き、そば作りの一部を体験して、話を聞くだけではわからない、農具の使い方や地域の方の優しさをたくさん感じる事ができました。来年度は私たちの代が中心となって、地域のためになることは何かを地域の方と話しながら、さらにいい活動をしていきたいです。

藤田 恭代 (法学部 2年)

今年も積極的に直接地域の方と交流できない中での活動でした。その中で、自分たちに何が出来るのか、何を求められているのかを改めて考え、今までとは異なる視点で地域活性化について向き合えたのではないかと思います。

山岸 思実 (農学部 4年)

## 今後に向けて

今年度のシンポジウムで3人のゲストスピーカーからお話をさせていただいたことをきっかけに、今後のダブルホーム活動の在り方を改めて考え直すようになりました。

具体的には、ミーティングの参加者が減少したり、地域の方を交えたミーティングの回数が少なかったりしたという反省点がありますが、それは他のホームでも問題視されていることだったので、充実した議論によってこれからどうすべきかをしっかり考えられました。

ダブルホーム活動は学生が主体となってやるので、まずは自分たちがやりたいと思えるかが重要であり、そこにモチベーションがついてくるということなので、年間の活動予定を改めて見直し、マンネリ化していないかなど話し合っていきたいです。そして、活動の振り返りを学生たちで行った後に、昨年作った地域の方とのLINEのグループに共有することで、学生の活動への姿勢を地域の方に知ってもらい、学生・地域間の心の距離を近づけるきっかけを作りたいです。

更に、思い出マップを新たに制作し、思い出と共にRホームの歴史を刻むことで、学年間の交流をより強化していこうと考えています。

## 活動地域より

地域住民としてホームの活動に対してできることは多くありませんが、少しのお手伝いと一緒に楽しむことができます。日々忙しいとは思いますが今しかできないことですのでどうか今を、大変なことも含めて楽しんでください。

阿賀町平堀 石川 広文 様

## 担当教職員より

今年度、数回ながら実現した地域活動、阿賀町を散策し地域の方に学び、交流の機会を持つだけで自然とお互いが笑顔になったのが大変印象的でした。主体的に計画する、実行しながら調整する、振り返りをする、という一連のプロセスは将来を生き抜く力につながるものと思います。

人文学部 干野 真一

## 活動記録 (2021年4月~2022年3月)

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月 新入生紹介動画の作成  
上川地区地域散策
- 7月 地域実習報告会
- 8月 そばの種まき
- 9月
- 10月 そば収穫  
郷土料理作り
- 11月 唐箕掛け
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月 おむすびえんむすびプロジェクト
- 3月



8月9日 そばの種まき



11月13日 そばの唐箕掛け





## 活動目的と概要

Sホームは阿賀町中ノ沢地区で活動しています。緑に囲まれた土地と地域の方々の温かさで、ほっと安心できるホームです。炭焼き窯やさいかみなど伝統のあるものや、透き通った美しい川や大きな天然杉など自然も豊かで、たくさんのおすすめポイントがあります。私たちは「楽しむ」を第一に掲げ活動しています。地域の方々は学生が中ノ沢で楽しく活動している姿を見て喜んでくださいます。Sホームでの活動を地域の方々と共に全力で楽しみ、さらにそこで得ることのできた中ノ沢の魅力や発見を発信していきます。

## 活動目標の達成状況

### 【地域活動について】

今年度の目標は、以下の3つでした。1. 昨年度培った非対面のスキルも活かして、対面・非対面の活動を両立させます。2. 昨年度なかなかつながらることのできなかつた中ノ沢の方々やホーム内でもより多くのコミュニケーションを取って、地域とのつながりやホーム内の仲を深めます。3. 地域の方と実際に会うことが難しい場合などにおいても、輪読学習したことを活かして、そこに実際に訪問し、更なる発見と知識を深めるなど新しい企画にも挑戦します。

達成状況は1については今年度も昨年度と同様にSホーム通信や年賀状の送付を続けることができました。昨年と同じようにできたためスムーズに行うことができました。2については対面の地域訪問もあり、昨年と比べればよくできました。夏や秋の地域訪問は自然を深く感じることができ、とても素晴らしかったです。3. 輪読したことをあまりいかすことができなかったです。来年度は活動だけでなく、ミーティングも対面で行うことが多くなると考えられるので、より意思疎通のしやすい、みんなが楽しめるような訪問になるのではないかと思います。

### 【ホーム運営について】

今年度の目標は1. 各訪問やシンポジウム等のイベントの担当者を明確にし、一つ一つに責任を持って取り組む、2. イベント等の担当になった人は主に全体への細かい役割分担などを働きかけ、担当者のみに負担がかからないような工夫をするという2点でした。

達成状況は1. イベントごとにしっかりと人を振り分けることができました。そのことにより、一年を通して一人に負担が偏ることなく、みんなで協力し、やり切ることができました。2. イベントの責任者は他の人にうまく仕事を振ることができたと思います。これは一年を通して大きなイベントごとに重い仕事が一度に来ることの無いようになりました。

また、今年度はミーティングやイベントの出席率があまり良くなかったことに加え、出席するメンバーが固定化されていたことが課題でした。ホーム内の輪を広げるために貴重な対面の機会をどう活かすか、さらに、非対面であっても思いを共有できる「機会」をどう生み出すかが重要だと感じた1年でした。

## ホームの概要

メンバー構成：1年生5人、2年生10人、3年生6人、4年生4人、修士以上1人、教員3人、職員1人

活動地域：阿賀町中ノ沢地区

関連団体：NPO法人お山の森の木の学校

ミーティング：平日昼休み週1回程度

## 成果物・制作物



シンポジウム用のパンフレット



年賀状

## 活動を通して学んだこと

統計上の数字をただ見るのではなく、実際に地域へ向かうことでしか分からない人とのつながりを肌で感じることができました。地域の方々のふるさとを大切に守っていききたいという思いに共感し、私もSホームの一員として地域のためにできることをやりたいと思うようになりました。

脇 俊之（医学部1年）

Sホームは2年生主体で活動を行います。私はかや刈りを担当しましたが、先輩方が築いてきた、地域との信頼関係のおかげで行事に参加できること、そしてイベントを実行するには多方面での連携が不可欠であることを学びました。昨年度より対面活動も増えて、発見の多い1年でした。

設楽 ゆうこ（法学部2年）

今年度はやっと初訪問の活動を行うことができ、大きな達成感を感じました。言葉や写真だけでは伝わらない中ノ沢の魅力を各々体感することができたと思います。参加できる回数は限られてきますが、今後もホームのメンバーとの関わり合いを大切にしながら活動をしていきたいです。

畠山 祥佳（経済学部3年）

この一年は、対面での活動が増え、地域訪問を初めて行えただけではなく、ホーム内でも活動の中心的学年の一人として活動を行ってきました。去年以上に学生以外の方と関わるが多くなり、様々な年代や立場の方とのコミュニケーションの取り方やマナーを学ぶことができました。

及川 将平（経済科学部2年）

## 今後に向けて

今年度は徐々に現地での活動が再開し、対面と非対面の両方の形で活動を行った新たな一歩を踏みだした一年でした。感染症対策によるソーシャルディスタンス、少ない回数の訪問、さらに飲食や時間的な制限の中での活動でしたが、地域で活動するという体験の楽しさを皆で共有することができたことは、大きな一歩であったと感じています。一方で、学生同士や学生と地域の方の実際に会う回数が少ないことによる「関わりの希薄さ」が課題として挙げられました。そこで、シンポジウムでは地域で活躍する講師の方と一緒に活動について考え、他ホームと協力して活動することや、SNSによってお互いの状況を伝え合うなど、この状況でもできることがあると前向きなアイデアが出ました。来年度は、シンポジウムで得られた新たな視点を活かしてさらに挑戦を重ねていきたいです。ホームミーティング内で挙げられた、まずは自分が楽しんで活動し、それを共有することで交流を深めていくことも一つの目標です。来年度も感染状況によって地域に行けたり、行けなかったりと判断が変化する状況が続くと思います。それでも、みんなで考え、活動を楽しむことができるように積極的に挑戦していきます。

## 活動地域より

Sホームの皆さん元気でしょうか。去年は春にしいたけの種駒打ち体験、夏には地区を彩る植栽、秋には塞ノ神のためのかや刈りをさせていただきありがとうございました。早くコロナが収束し皆さんと笑顔で再開できる日を待っています。

阿賀町中ノ沢地区 神田 惣一 様

## 担当教職員より

コロナ禍の活動制約下でしたが、その中で「何をしたいか」「何ができるか」と問い続けた1年間だったと思います。今後はそれらを実行し、「地域の中で楽しむこと」を通じたダブルホーム活動に立ち返り、地域、学生、教職員、OBOGの繋がりがより深まることを期待します。

経済科学部 岡戸 邦久

## 活動記録（2021年4月～2022年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 二年生初訪問
- 6月
- 7月 一年生初訪問  
地域実習報告会
- 8月 Sホーム通信完成
- 9月
- 10月
- 11月 かやかり
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月 年賀状
- 2月 お神酒の送りもの
- 3月



5月2日 しいたけの菌うち後の写真



11月6日

かやの刈り方をご指導していただきました





### ホームの概要

メンバー構成： 1年生8人、2年生8人、  
3年生6人、4年生2人、  
教員2人、職員2人

活動地域： 十日町市松之山地区下川手

関連団体：

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

### 成果物・制作物



#### ふるさとマップの作成

ほりごたつの学生・教職員一人ひとりの「ふるさと」を紹介するマップを作成しました。このマップは現在、下川手集落の公民館に貼っています。

## 十日町×しちべえ×美人林=ほりごたつ

### 活動目的と概要

Tホームは、十日町市松之山地区下川手集落にてほぼ手作業で行う米作りを中心とした活動を行っています。活動目的として、活動を通して稲作技術や田んぼの生き物について学ぶこと、地域の皆さんとの交流を深めることを挙げています。コロナ禍の制約により地域での活動が行えなかった昨年度とは異なり、今年度は定期的に訪問をして地域活動に携わることができました。また、ふるさとマップや米作りマニュアルの作成など新たな活動も行いました。

### 活動目標の達成状況

#### 【地域活動について】

Tホームでは今年度の地域活動の目標を、パンフレット・お米作りマニュアル作成および地域行事の支援に設定しました。

パンフレット作りについて、美人林散策や集落の方のご意見も取り入れながら、文章作成や翻訳の作業を行いました。しかし、パンフレット作りに関して活動が停滞したため、まだ完成に至っていません。来年度には完成させたいと思います。米作りマニュアルについては苗代づくりや田植えについてなど工程ごとにまとめてマニュアルを作成しました。このマニュアルは来年度以降、新加入生が米作りへの理解を深めるための事前確認に活用し、また加筆修正を加えることによってより良いものにしていきたいと考えています。さらに、活動中に見られた生き物をまとめた生き物観察記録も作成しました。

地域行事の支援についてはコロナ禍で制限の多い活動となりましたが、道普請への参加などできる範囲でよりよい活動となるよう尽力しました。ですが美人林の活用について話し合う機会が少なかったので来年度以降は話し合っていけるようにしようと考えています。

#### 【ホーム運営について】

今年度の運営目標には、①定期的なミーティング、②かわら版の発行、③活動記録の作成、④下川手の方々から教わったことをそれぞれで記録し共有する、の4つを掲げていました。活動の記録の作成は、今年度実行することができなかつたため、来年度以降取り組んでいきたいと思っています。

定期的なミーティングでは、オンラインと対面を併用して実施し、さらに昨年度に引き続き話し合った内容をメールで共有するなど、参加の形態について柔軟に対応することができました。かわら版の発行については、シンポジウムの際に助言をいただき、活動の振り返りを載せるだけでなく、学生の感想や学んだことを載せるなど、内容を充実させることができました。また、活動期間が空いてしまうときには郵送するなどして、地域の方に活動後、素早く届けることができました。下川手の方々がかわら版を楽しみにしてくださっているので、来年度以降もかわら版の作成には力を入れていきたいです。下川手の方々から教わったことや地域の様子について、学生間で情報を共有することができました。



## 活動を通して学んだこと

コロナ禍での活動になりましたが、一年目に直接下川手に行って活動できたことは今後に向けて良い経験になりました。また、コロナ禍において限られた条件の中で充実した活動をするためには、ホームメンバーや地域の方との話し合いや連携が重要であるということを改めて学びました。

水落 一衣 (人文学部1年)

下川手の皆様と直接顔を合わせて活動できたことがなにより喜びです。対面での活動を継続的に実現できたのは、学生の努力はもちろん、教職員の皆様のご指導、下川手の皆様の活動へのご理解があってこそだと切に感じています。引き続き、活発な活動を続けていけたらと思います。

野中 慎悟 (人文学部3年)

今年度の活動から、活動地域の素晴らしさとコミュニケーションの大切さを学びました。地域に赴くことが可能となり、集落の皆様の優しさや自然の豊かさにたくさん触れることができた1年でした。ホームのメンバーと話す機会も増え、交流できることの嬉しさと大切さを実感しました。

渡邊 桃乃 (理学部2年)

今年度は私自身あまり活動に参加できませんでした。改めてコミュニケーションの大事さを学びました。今までの活動を踏襲し、新たな活動へと発展させるなかで、メンバーが目的意識を共有し、地域の方々の想いを汲み取るためには頻繁な交流が必要不可欠だと感じました。

喜多川 優 (農学部4年)

## 今後に向けて

今年度と同様、次年度も田んぼでの「しちべえ」作りを中心に活動を継続して行っていきます。今年度から作成に取り掛かったお米作りマニュアルの編集を進めた上で、次年度からは活動の際にマニュアルを活用することで作業の振り返り・スムーズな作業進行に繋げていきたいです。そのためにまずは、内容のブラッシュアップを行うべく、学生で作成したマニュアルを下川手の皆さまにご確認いただき、ご意見を伺えればと考えています。それと並行して、田んぼの周りに生息する生き物観察記録の作成も引き続き進めていきます。他にも、昨年度から続けてきた美人林の多言語対応パンフレット(英語)の完成も目指します。現状、作成が停滞しているため、早急な進捗確認とホーム内で期日を設けた作成活動を行っていく所存です。

また、ホーム内の話し合いにおいては、かわら版の内容の見直しが今後の課題として挙がっています。次年度からは学生が主体となってほりごたつの Facebook を運用する予定なので、下川手の皆さまにお渡しするかわら版には学生視点の感想を意識して盛り込み、Facebook の投稿には写真を多用した活動記録を中心とするなど使用目的・発信する情報内容等に目線を絞って作成することを心掛けます。

## 活動地域より

5月8日2年ぶりの現地活動が行われました。苗代作りと道普請の参加でした。限られた時間でしたが若葉の中で皆さんは輝いていました。秋まで田植え、草取り稲刈りと汗と笑顔で頑張り美味しい「しちべえ」が取れました。楽しい交流ができて楽しかったです。ありがとうございました。

十日町市松之山地区下川手 高波 悟 様

## 担当教職員より

今年度は、感染症対策のため制限はありましたが、地域の活動を再開することができました。昨年1年間、現地に行けなかった学生の皆さんにとって地域の活動はとても貴重に感じられたと思います。少しずつ状況は改善されていくと思いますので、来年度も引き続き頑張ってください。

医学部保健学科 早川 岳英

## 活動記録 (2021年4月~2022年3月)

- 4月 大説明会
- 5月 苗代作り・春の道普請
- 6月 田植え、草取り①
- 7月 草取り②、草取り③  
地域実習報告会
- 8月
- 9月
- 10月 稲刈り、脱穀
- 11月 秋の道普請
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月 さいの神(オンライン)
- 2月
- 3月



10月23日 稲刈り



11月14日 秋の道普請



## 活動目的と概要

私たちは活動を通して地域の方々と交流し、地域活性化に繋げることを目的に活動しています。今年度は「昨年度より多くの地域の人と交流する」ことを目標に掲げ、非対面活動と対面活動の両方を行ってきました。具体的には、非対面活動では、「阿賀町すごろく」の作成や「モザイクアート作製」、「料理リレー」を行いました。対面活動では、畑作業や阿賀町のイベントに参加し、地域の雰囲気を感じることが出来ました。来年度は新たなホームの柱となる活動を取り入れるべく模索しています。

### ホームの概要

メンバー構成：1年生6人、2年生10人、  
3年生3人、4年生2人、  
教員3人

活動地域：阿賀町市津川地区

関連団体：阿賀町役場

ミーティング：平日昼休み週1回程度

### 成果物・制作物



畑で収穫したサツマイモ

## 活動目標の達成状況

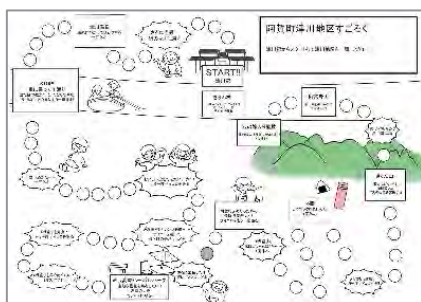
### 【地域活動について】

私たちは今年度の地域活動の目標として、「非対面活動に加えて対面活動を取り入れることで、より多くの地域の方と交流する。」「長期的な活動の準備や計画を進める。」以上2点を今年度の目標として掲げました。1つ目に関しては、コロナ禍でいくつかの制限はあるものの、実際に地域に行き畑作業を行うことが出来、また、地域のイベントに参加することが出来ました。これらの活動を通して対面での地域の方々との繋がりを保つことが出来ました。コロナ禍ということもあり、特定の地域の人々とはしか交流を持てませんでした。来年度は地域の高校生と一緒に活動出来ないかなどを模索しています。課題としては、コロナが収まった際に、より多くの地域の方々と交流するにはどのような活動を行っていけばよいかを考える必要があります。また、2つ目の目標の「長期的な活動」として昨年度から行っている「阿賀町すごろく」が挙げられます。しかし、当初予定していたよりも完成が先延ばしになってしまい、未だに完成していない状況です。いち早く「阿賀町すごろく」を完成させることが今後の課題として挙げられます。

### 【ホーム運営について】

今年度のホーム運営での目標として、「ホーム内での交流を継続し、チームワークを高める」「役割を分担し、全員が活動意義を見出せるようにする」という2つを目標に掲げました。

前者に関しては、昨年に引き続きホーム内での「料理リレー」や作成途中の「阿賀町すごろく」を使って遊んだりしたことで、学年問わず打ち解け合うことが出来ました。週に1度のミーティングでは、下級生が縮こまらないように、気軽に参加できる雰囲気づくりを心掛けました。実際にミーティングでは下級生が積極的に意見を述べてくれました。後者に関しては、上級生だけに役割を割り振るのではなく、必要な場面が出てきた際には、役割を下級生にも割り振り、学年関係なく役割を分担しました。しかし、目標の一つである「活動意義を見出す」部分では、実際に私たちが行っている畑作業はどのような目的を持った活動であるのか不明確な部分がありました。今後の課題としては、活動を行っていくにあたり、その活動の意味を明確にし、全員でその活動の意義を共有することが挙げられます。



阿賀町すごろく



## 活動を通して学んだこと

当初は不安な気持ちがありました。しかし同学年の人や先輩方と接する中でとても楽しく活動出来ました。またコロナ禍ではやりたい活動が制限される場面もありましたが、地域訪問で地域の方々からの丁寧な対応に感激しました。人と人とのつながりの大切さを学んだ一年でした。

榎 南美 (経済科学部1年)

来年度以降、U ホームで使わせていただいている畑や一部の施設が使えなくなりましたが、今までの活動を見直したり、来年度以降の活動を考える良い機会となりました。このことから、一見困難に思えることもより良いことにつながるチャンスになる事を学びました。

金子 亮雅 (農学部2年)

今年度は制限があるものの、実際に地域に行き活動することが出来ました。様々な活動を通して、活動の目的を明確にすることの重要性を学びました。目的を明確にすることで、活動全体の見通しを立てることが出来、有意義な活動が出来ることを実感しました。

伊藤 僚太 (教育学部2年)

今年度は地域活動をする機会を得られました。自分たちでエゴマの苗を育て畑に植えましたが、上手く育つことはありませんでした。この失敗を挑戦した証拠と前向きに捉え、今後も様々な活動に挑戦していきたいです。畑の管理など、改めて地域の方の支えを実感できました。

深沼 瑞会 (創生学部3年)

## 今後に向けて

今年度は前年度と異なり、いくつかの制限はあるものの実際に地域に行き活動することが出来ました。畑作業や地域のイベントに参加したことで、地域の方々とも交流することが出来、津川を肌で感じる事が出来ました。

今年度は活動の拠点であったログハウスが使えなくなり、また、来年度からはこれまで使っていた畑が使えなくなるということで、従来のUホームの柱であった活動が出来なくなってしまいました。畑作業に関しては地域の方々に頼りにしすぎているという課題があり、ホーム内での話し合いや、地域の方々とZoomを通して検討した結果、来年度以降は畑作業を中止する方針で決まりました。そのため、新たな活動の柱となるものを見つける必要があります。畑作業では活動の目的が不明確な部分がありました。新たな活動を模索していくにあたり、活動の目的を明確にし、地域の方々にとって、また、私たち大学生にとって有意義な活動を見出していきたいです。

## 活動地域より

コロナ禍の中、思うように活動出来ないことも多かったです。今年度は阿賀町を訪れていただけたことが何よりです。町の観光施設訪問やイベント見学、畑作業において自らの手で収穫したことを次に繋げてください。町に触れる機会が増えることを期待しています。

阿賀町 まちづくり観光課 遠藤 沙織 様

## 担当教職員より

僕がUホームに参加したこの3年間は激動の3年間でした。そもそもUホームを選んだのは、「地域の行事に参加するだけでは物足りない、ダッシュ村を作りたい」という先輩の気持ちに賛同したからでした。ところがコロナが発生、方針も変更になりました。しかし皆なら乗り越えられる。頑張れ！

人文学部 齋藤 陽一

## 活動記録 (2021年4月~2022年3月)

- 4月 大説明会
- 5月 街歩き
- 6月 エゴマ栽培
- 7月 はたけ作業  
地域実習報告会
- 8月
- 9月 はたけ収穫
- 10月 はたけ収穫、阿賀町 SAKE パルシェ
- 11月 料理リレー
- 12月 モザイクアート完成  
ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月



9月26日 さつまいも収穫



10月31日 阿賀町 SAKE パルシェ





## ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 9 人、2 年生 8 人、  
3 年生 8 人、4 年生 6 人、  
教員 2 人、職員 2 人

活動地域： 糸魚川市小滝地区

関連団体： ひすいの郷つくる会  
糸魚川市役所

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

## 成果物・制作物



地域実習報告会にむけて作成したスライドです。A・B チームともに活動写真や地域の方々へのインタビューを基に、良いスライドを作成していました。



ふるさとマップ

一年生が中心となり、V ホームの学生・教職員の出身地やそのいいところ等をまとめました。

# 地域の魅力を伝えよう

## 活動目的と概要

私たち V ホームは、新潟県糸魚川市小滝地区を中心に活動を行っています。高齢者は比較的多いですが、自然が豊かで魅力の多い地域です。V ホームは今年度、「地域の方々と交流し、文化体験で感じた魅力を SNS 等で発信する」という目標の下、Twitter やインスタグラム等を用いて発信してきました。また、文化体験で発見した魅力等を 1 つの冊子にまとめるという目標も立て、取り組んできました。

## 活動目標の達成状況

### 【地域活動について】

今年度 V ホームでは、地域活動の中で①Zoom を用いた地域の方々との顔合わせを行う、②糸魚川市のジオパークを訪問して地域理解を深める、③訪問場所の動画作成を行う、④SNS を用いた地域情報の発信を継続する、という 4 つを目標に活動してきました。

まず①についてです。今年度は対面の現地訪問以外にも、Zoom を用いて小滝地区の皆様と地域実習の質疑応答をすることや、おむすびプロジェクトについてのお話を聞くことができました。現地で直接話を聞けなくとも Zoom 等を通して小滝地区の皆様とお話ができ、とても良い手段だったと考えます。

次に②についてです。8 月・1 1 月訪問で糸魚川市のジオサイトを 2 か所訪れることができ、糸魚川市の歴史を肌で感じる事ができました。しかしその一方で、ジオサイトを現地に直接行って見るだけで、その後、SNS 発信等にかせなかつたのが反省点です。

次に③についてです。この訪問場所の動画作成については、今年度実施することができませんでした。今後は新しいチャレンジ活動にも積極的に取り組んでいきたいです。

最後に④についてです。ミーティングや現地訪問の様子は SNS で発信できたものの、小滝地区や糸魚川市の発信を殆ど行うことができなかったため、そこが反省点になっています。

### 【ホーム運営について】

今年度も非対面での活動が多い中、ホームメンバー 1 人 1 人の活動意欲を保つことや、ホームメンバー同士の関わりを増やす等の目標を立てて活動を進めてきました。しかし今年度も、例年のようにミーティングの出席率が低く、ミーティングでも毎回一部の人としか顔を合わせることがなく、議事録も毎回同じようなメンバーが書くことになってしまいました。そのため、ホームメンバーの仕事の負担に偏りが出てしまうことが多々ありました。

その一方で今年度は昨年度と違い、現地訪問を実際に行うことができたので、活動意欲を比較的持ちやすかったと思えますが、今後はミーティングに地域の方をお呼びする等、ミーティング出席率が高くなるように考えていきたいです。

## 活動を通して学んだこと

8月訪問では、明星山やヒスイ峡などを実際に見たことで、より多くの小滝地区の魅力を発見することができ、より良い経験となりました。来年度以降、この魅力をより多くの人に知ってもらえるよう、活動していきたいです。

山岸 芽生（工学部1年）

コロナ2年目となり、今年は3回の現地訪問を実施しました。気づけば訪問皆勤賞でした。その一方で活動へのモチベーションは容易に下がったような気がし、また、私の繋がりは薄まってしまっています。ホームのこと、活動のノウハウ、地域の記憶を残していきたいです。

近藤 竜（人文学部3年）

今年度も、地域の方やVホームのメンバーと直接顔を合わせる機会が少なく、自分自身、前向きに活動に取り組めなかったことを反省しています。その中でも、非対面でできることを模索する中で、地域について深く学ぶことができ、下級生とも交流できたことはとても嬉しかったです。

田口 小桃（理学部2年）

今年度も訪問に制限がかかったの活動となり、自分も含めメンバーにとっての参加意欲を保つことが困難な状況がありました。コロナ禍でもできることに取り組んでいます、士気を維持するためにも、一刻も早く以前のような活動ができることを切に願っています。

菅 一眞（工学部4年）

## 今後に向けて

今年度はコロナ禍でありながらも現地訪問を行うことができ、小滝地区を目で見て肌で感じることができましたが、小滝地区の方々と直接お話をすることや一緒に活動をするのが殆どできませんでした。例年通りであれば、小滝ウォーキングや雪上レクリエーションを行うことができていましたが、来年度も現在のようなコロナ禍が続くことが想定されます。そのためコロナ禍でも、例えばマスクを着用し距離をとって地域の方々とお話をすることや、屋外で小滝地区を歩きながら地域の紹介をしてもらう等の活動を検討していく必要があると考えます。

また、現地活動だけではなく、今後はミーティングの出席率を上げるための手段を考えていく必要があると考えます。1年次の地域実習前後までは出席率が高いものの、その後、または学年が上がるにつれて出席者が少なくなり、毎回ミーティングメンバーが固定されてしまうという問題が多かったです。そのため、通常のZoomミーティングでも、地域の方々をお呼びしてお話を聞く機会を設ける等、ミーティングに参加したいと思えるような環境づくりをしていきたいです。

## 活動地域より

コロナ禍で、現地での活動が思うようにできない中で、定期的なホームミーティングなどで、今できる活動を精力的に続けており、それを私どもにも共有できていることに、ありがたく感謝しています。早く皆さんと一緒に活動・交流できる日を待っています。

糸魚川市小滝地区 中村 久和 様

## 担当教職員より

地域の方々や卒業生の方々に支えて頂きながら、学生たちの奮闘により、オンラインでの会合が中心になりつつも、現地に訪問することができ、活動の幅が広がったことと思います。今後も1人1人が自分の特徴をいかしながら、より良い活動ができることを期待しています。

教育学部 下保 敏和

## 活動記録（2021年4月～2022年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 プロフィール帳作成  
現地訪問
- 6月 Zoom内顔合わせ
- 7月 地域実習報告会
- 8月 現地訪問
- 9月
- 10月
- 11月 現地訪問
- 12月 ダブルホームシンポジウム  
おむすびプロジェクト内容検討
- 1月
- 2月
- 3月



5月15日 小滝川ヒスイ峡



11月7日 ヒスイ探し

## 2021 年度 ダブルホーム関連のメディア掲載一覧

掲載年月日	掲載先	内容	関連ホーム
2021 年 7 月号	新潟市中央区ボランティア市民活動センターだより「ボラまち」	ダブルホームー地域とともに創る新たなふるさとー ・交流のカタチ ・地域をよくするモチベーション	A ホーム L ホーム
2021 年 9 月 25 日	にいがた経済新聞	5G ビジネスラボ（新潟市中央区）を利用した初の実証実験、映像配信とロボット遠隔操作を実施	N ホーム
2021 年 9 月 29 日	新潟日報	遠隔操作もロボ滑らか 5G ラボで初の実証実験	N ホーム
2021 年 12 月 11 日	狩野哲也事務所 Blog	新潟大学ダブルホームシンポジウムでお話したことをまとめてみました。	全ホーム

### 新潟大学ダブルホーム 2021 年度 活動報告書

発行日 2022 年 8 月 31 日

発行者 新潟大学 教育・学生支援機構 教育プログラム支援センター  
連携教育支援オフィス ダブルホーム部門

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地  
総合教育研究棟 B454

TEL : 025-262-6309

FAX : 025-262-6991

E-mail: home@ge.niigata-u.ac.jp

印刷 富士印刷株式会社







新潟大学ダブルホーム

## ソーシャルメディアをチェック!

ダブルホームの活動の様子を配信中!

Homepage



Twitter



Instagram



LINE



Facebook



リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。